

守山市内の地域資源の例について

資料

平成 25 年 5 月 作成

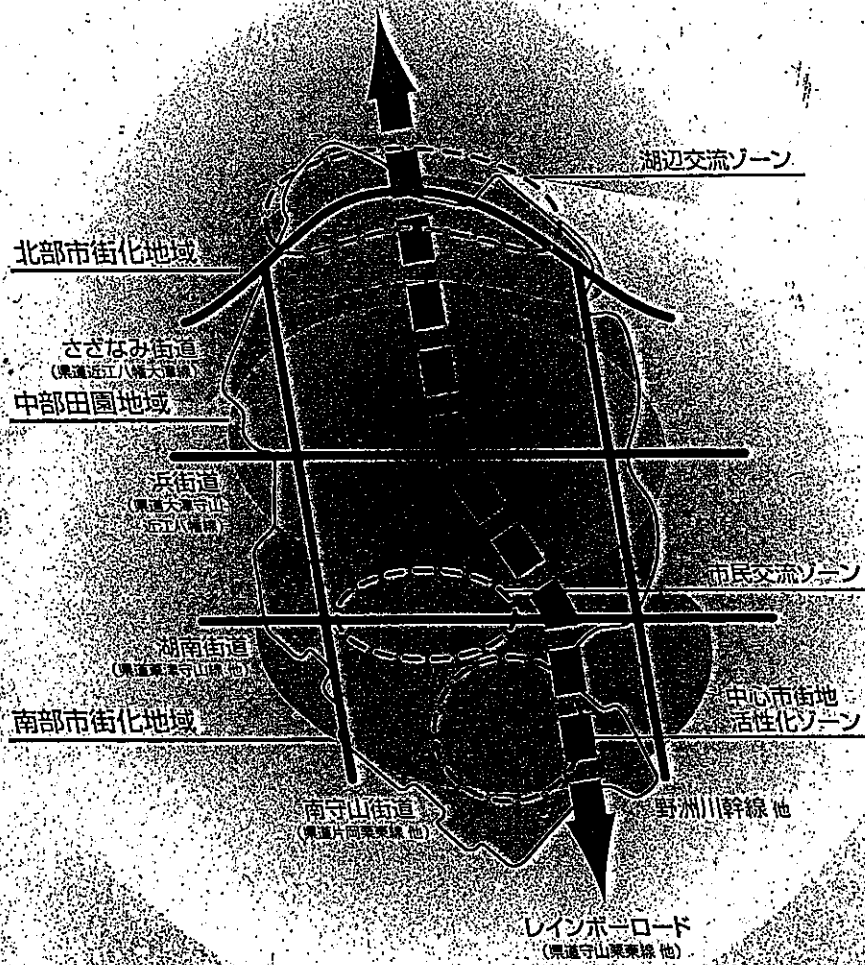
	① 歴史・文化資源	② 自然資源			⑤ 地域交通資源 (自転車含む)	⑥ 公共資源	⑦ 産業資源	⑧ 民間活力資源	⑨ 地域コミュニティ資源
		川(水): 野洲川高水敷、 大川、新川、 目田川 など	琵琶湖(水): 琵琶湖、 赤野井湾、 木浜内湖 など	緑: 都市公園、 都市緑地、 街路樹 など		子育て、 教育、 医療 など			学区、 自治会
1. 守山学区	勝部火祭り、勧講吊り、古高鼓踊り、うの家、山本正右衛門邸、一里塚、源内塚、松塚古墳、中山道石造道標、新善光寺道道標、筆中、天満宮三十六歌仙絵、大光寺銅造誕生釈迦仏立像、東門院、東門院木造不動明王坐像、東門院五重塔、宝塔、図書館(増築+文化芸術活動拠点)、伊勢遺跡(正殿+楼観復元)、勝部神社、住吉神社、日吉神社、守善寺石造宝篋印塔、教願寺石碑、安楽寺千手観音立像、最明寺石造五重塔、十王寺、旧守山小学校玄関、木内石亭の墓、樹下神社常夜灯、本像寺石造題目塔、住蓮房母の墓、福寿院の横、中山道街道文化交流館、甲屋跡、諏訪神社石碑、古高俊太郎石碑、稲妻型屋敷割り、支那街道、蓮生寺、大將軍神社	目田川(遊歩道整備)、金森川(ホタルの生息環境)、吉川、守山川(三坪公園)、三津川	-	駅前緑地、あまがいき親水緑地、えんまどう公園、目田川親水緑地公園(吊り橋)、守山町公園	勝部吉身線延伸、大門野尻線アンダー着手、湖南幹線整備、片岡栗東線整備	エルセンター、駅前総合案内所、あまが池プラザ、県立守山中高	コココーラ、ダイハツ・ディーゼル、Canon、サメディカル	大型商業施設、駅前商業施設、駅周辺商店街、近江鉄道用地	会館(学区、自治会)
2. 吉身学区	浮気火祭り、豊年祭り、酒八、下之郷遺跡、慈眼寺(帆柱観音)、馬路石邊神社、伊勢道、田中神社の石、西隆寺、岡田逸二郎顕彰碑、石造阿弥陀像、東福寺、中仙道高札場跡、岡寺山古墳、西隆寺山越阿弥陀図、西隆寺経塚、立入城跡、石造道標、新川神社、石造地蔵、地藏堂、浮気城跡、二ノ畦・横枕遺跡、寺山古墳群、石田川、吉身小学校講堂、JR橋、吉身西遺跡、鬼瓦	野洲川高水敷、目田川(遊歩道整備)、守山川、ハリヨ		立入河川公園、都賀山裏駅前グラウンド、クロマツ(明覚寺)、シキミ(東福寺)、ムクノキ(岡)、コウヤマキ(西隆寺)、サザンカ(源昌寺)	野洲川高水敷自転車道、稲妻型道路	市民交流センター、市民病院、成人病センター(新棟建設)、小児医療センター、ふれあい公園病病連携関連整備	センコー	都賀山荘、守山商工会議所、立入グラウンドゴルフ場、ほたるの湯、市民交流ゾーン(地区計画)	会館(学区、自治会)
3. 小津学区	薙刀祭り、市民ホール、ほたるの森資料館(賑わい・交流施設増築)、欲賀城跡、金森城跡、欲賀寺跡、山賀城跡、三宅城跡、大林城跡、筋後光正阿弥陀如来画像、親鸞聖人御影、水渡神社、慶先寺、山賀・薬師堂、金神社、金森御坊、織田信長朱印状、井戸跡、金森懸所宝塔、三津川下流の宝塔基礎石、岩崎神社、小津神社本殿、宇迦乃御魂命坐像、小津神社岩風呂、長刀振り保存館(小津神社)、三之宮本殿(小津神社)、蓮如池、蓮生寺本堂、水止め石、賞賛浄土仏撰受経、熊野神社、薬師堂の仏頭、護摩堂、庭塚古墳、支那街道、馬街道	新守山川(自転車道・遊歩道整備)	赤野井湾、小津袋	市民運動公園(セントラルパーク化)、もりやま声刈園	新守山川沿い自転車道、湖南幹線整備	立命館守山中高	園枝バラ園、漁業、東洋インキ、大同塗料	市民交流ゾーン(地区計画)	会館(学区、自治会)
4. 玉津学区	薙刀祭り、諏訪屋敷(迎賓館)、矢鳥御所、少林寺(仏涅槃図、木造一休和尚座像、一休和尚法度、紙本墨書法度、靈山和尚法度、一休和尚板木)、関光寺、赤野井東別院、光明本尊(赤野井西別院)、馬場、釈迦堂、天保義民の庄屋宅、聖観音菩薩座像、分水石、真光寺、六条堤、佐々木街道	天神川(バイパス整備)、関加井(池)	赤野井湾、小津袋	地総センターグラウンド、タギョウショウ(赤野井東別院)、キンモクセイ(少林寺)、シノキ(小津若宮神社)、ゴヨウマツ・オハツキイチョウ(常照寺)、しだれ柳(箸塚)、ラカンマキ(福正寺)		地総センター	漁業		会館(学区、自治会)

5. 河西学区	<p>近江妙蓮、蜷江神社、播磨田城跡地、杉本屋敷、水止め石、蜷江神社(鱒口、大般若経理趣分)、河西民族資源室、錦織寺道、川戸、阿比留遺跡、狐山古墳、播磨田東遺跡、八ノ坪遺跡、酒寺遺跡、丸坪の湧、播磨田湯の樋、出湯の樋、佐々木街道、餅つき神事(中町若宮神社)、お粥神事(中町)、田中幸右衛門記念碑、水止め石、高田信岳顕彰碑、西蓮寺板碑、鳩の森公園、川田合村跡、十王堂、天神社</p>	<p>野洲川高水敷、法竜川(パイパス整備)</p>	<p>—</p>	<p>川田河川公園、北川原公園、近江妙蓮公園、笠原サクラ公園、鳩の森公園、カクレミノ(皇小津神社)、ヅカ(天満宮)、コウヨウザンとナナメノキ(八田神社)、ミクリ、二度咲き桜(中町若宮神社)、川田の一本松、ヒイラギ(天神社)</p>	<p>野洲川高水敷自転車道</p>	<p>市民農園(荒見ファーム)、旭化成、JNC、比叡ゆば</p>	<p>川田グラウンドゴルフ場、大型商業施設</p>	<p>会館(学区、自治会)</p>	
6. 速野学区	<p>佐川美術館、光照寺、環境センター(環境学習拠点)、お満灯笼籠、福林寺(十一面観音、石造宝塔)、大川橋、土手殉死供養碑、系列図橋、己爾乃神社(開発・大曲)、水保観音寺仏画、観音寺(石造り板碑、石仏郡)、木浜城跡、今浜城跡、大槻氏城跡、木浜墓地、板倉街道(このはまみち)</p>	<p>大川(オープンミュージアム)、新川、北川用水路、野洲川南流廃川敷</p>	<p>琵琶湖南湖(雄琴温泉往復船)、木浜内湖(琵琶湖原風景周遊)、十合池</p>	<p>地球市民の森、美崎公園、なぎさ公園、なぎさ第一公園(菜の花ひまわり園)、ハマヒルガオ群生地、クスノキ(浄秀寺)、ハンノキ(洲本)、フジ(観音寺)、楓(中野)、蓮(十郷池)、旧野洲川堤防沿いの希少植物(ササユリ、オモト、アキニレ、タコノアシ)</p>	<p>湖岸道路沿い自転車道、R477整備</p>	<p>北公民館</p>	<p>漁業、ココア・ウエスト</p>	<p>ラフォーレ琵琶湖、琵琶湖プラザ、住友リゾート、ヤママリーナ、大型商業施設、琵琶湖レイクサイドゴルフコース、地球市民の森グラウンドゴルフ場、水保の湯、おうみんち</p>	<p>会館(学区、自治会)</p>
7. 中洲学区	<p>鯉切り祭り、ケンケト祭り、長刀祭り、服部遺跡、服部陣屋、戸田城跡、立花城跡、小浜城跡、埋蔵文化財センター、環境センター(環境学習拠点)、下新川神社、天満宮、立田円福寺(石仏)、東光寺(十一面観音像、五輪塔)、銅鐸(新庄)、稻荷神社、地蔵堂、大水口神社、小浜大日堂(大日如来、薬師如来)、極楽寺(阿弥陀如来、聖観音菩薩)、産土神社、桑ノ木樋門、樋門</p>	<p>野洲川高水敷(交流スペース確保)、野洲川南流廃川敷、野洲川北流廃川敷、地域用水の復活、洪水写真(新庄)、野洲川改修記念館</p>	<p>琵琶湖北湖(周遊)、幸津川の水汲み、ビッグレイク</p>	<p>今浜コスモス園</p>	<p>湖岸道路沿い自転車道、野洲川高水敷自転車道、R477整備</p>	<p>フルーツランド、市民農園(夢農園)、イマック</p>		<p>会館(学区、自治会)</p>	

土地利用構想図(第5次総合計画から)

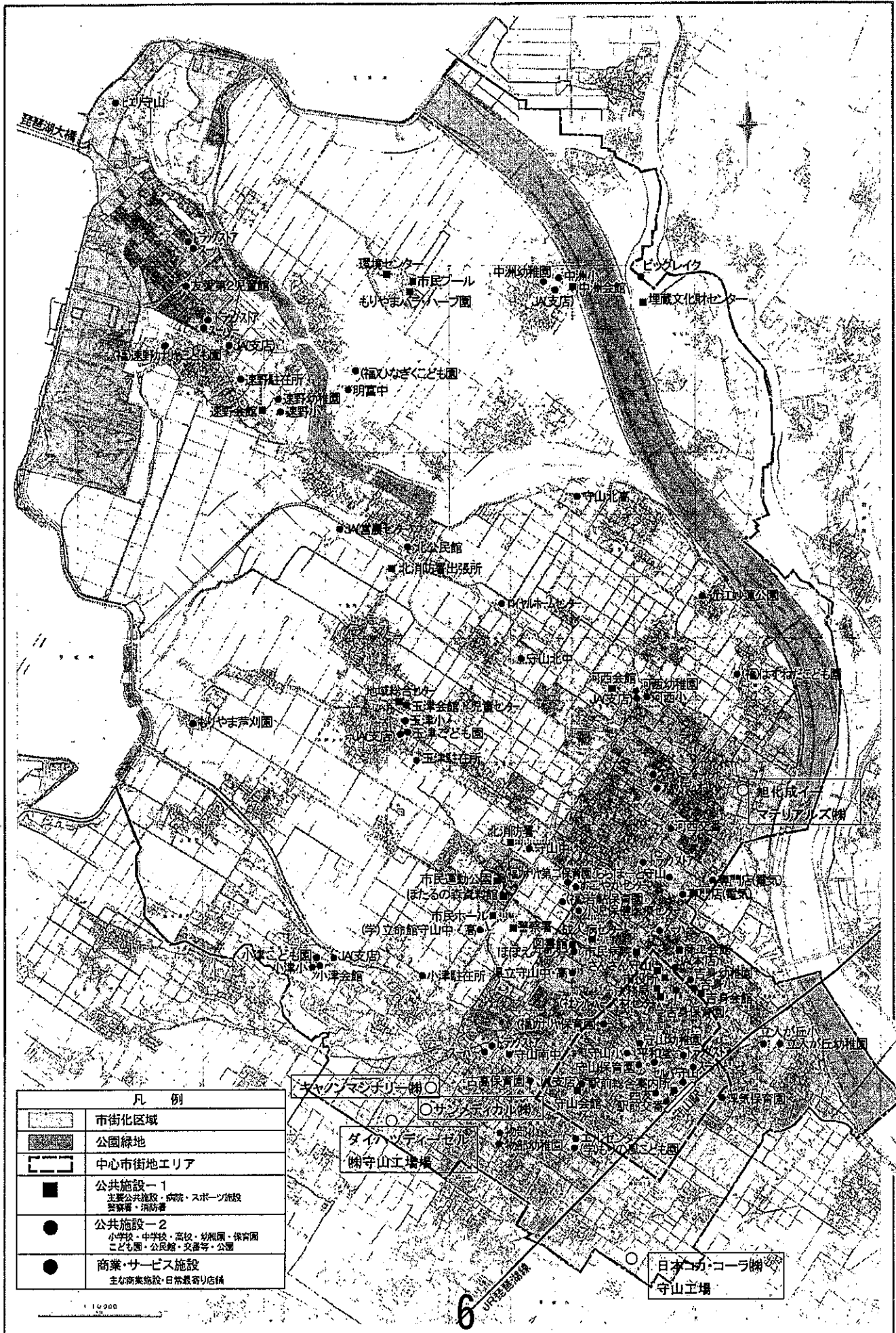
①中心市街地活性化ゾーン	うの家、山本正右衛門邸、一里塚、筆忠	金森川(ホテルの生息環境)、吉川川、守山川(三坪公園)	-	駅前緑地、あまがいけ親水緑地、えんまどう公園		あまが池 ブラザ		大型商業施設、駅前商業施設、駅周辺商店街、都賀山荘
②市民交流ゾーン	図書館(増築+文化芸術活動拠点)、市民ホール、ほたるの森資料館ほたるの森資料館(賑わい・交流施設増築)	目田川(遊歩道整備)	-	目田川親水緑地公園(吊り橋)、市民運動公園(セントラルパーク化)		県立守山中高、立命館守山中高、市民病院、成人病センター、小児医療センター、病病連携関連整備		
③湖岸活性化ゾーン	佐川美術館、光照寺、環境センター(環境学習拠点)	大川(オープンミュージアム)、新川	琵琶湖南湖(雄琴温泉往復船)、琵琶湖北湖(周遊)、木浜内湖(琵琶湖原風景周遊)	地球市民の森、美崎公園、なぎさ公園(県指定管理)、なぎさ第一公園(菜の花)、環境センター(温浴施設、温水プール、温室カフェ、フルーツ直売所)、バラハーブ園、小浜河川公園、ビッグレイク	湖岸道路沿い自転車道	フルーツランド、漁業、ココア・ウエスト	ラフォーレ琵琶湖、琵琶湖ブラザ、住友リゾート、ヤママリーナ、大型商業施設、琵琶湖レイクサイドゴルフコース、おうみんち	

土地利用構想図



*土地利用構想の方針としては、市域を3つの地域「北部市街化地域」「中部田園地域」「南部市街化地域」に分け、その中で都市機能が集積した場所として、北部市街化地域に「湖辺交流ゾーン」、中部田園地域と南部市街化地域の境界に「市民交流ゾーン」、JR守山駅周辺に「中心市街地活性化ゾーン」の3つのゾーンを設けました。

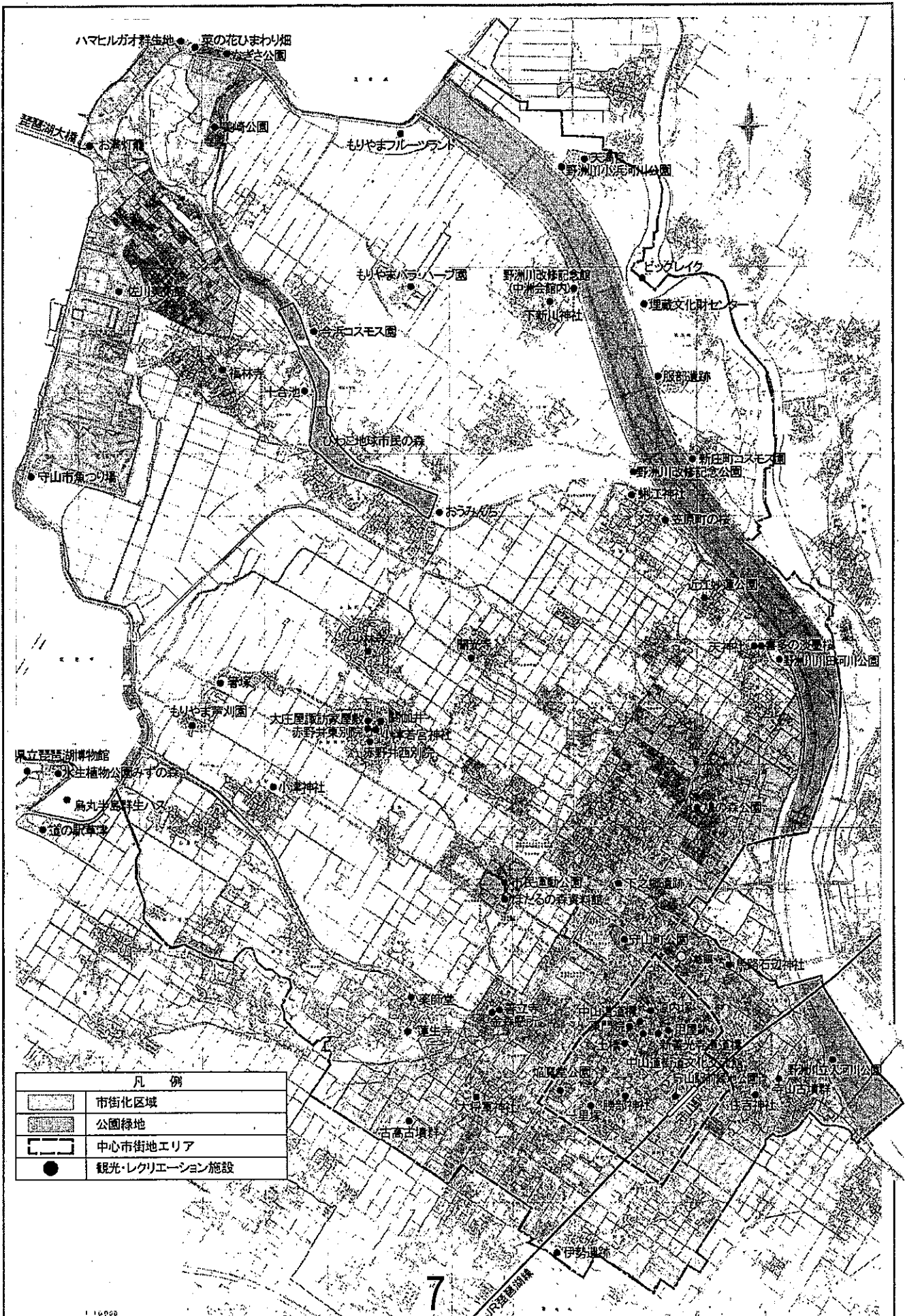
■ 公共施設・商業施設・主要事業所等分布図



凡例	
	市街化区域
	公園緑地
	中心市街地エリア
	公共施設-1 主要公共施設・病院・スポーツ施設 警察署・消防署
	公共施設-2 小学校・中学校・高校・幼稚園・保育園 こども園・公民館・交番等・公園
	商業・サービス施設 主な商業施設・日常必需品店舗

1:10,000

■ 観光・レクリエーション施設分布図



守山学区

守山学区

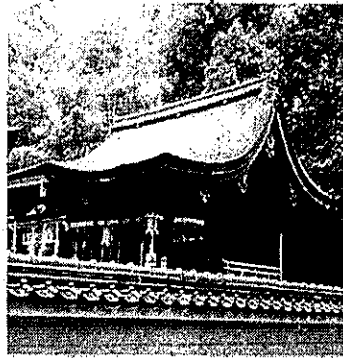
① 歴史街道マップより

17. 中山道石造道標



守山宿の北端、善光寺道との交差点にある石造道標で「右高野新善光寺すぐ石部道」を刻む。高野新善光寺は栗東町にある新善光寺で、石辺道とは東海道石部宿への案内を表している。

18. 勝部神社本殿



物部布津神を祭神とする神社で古くから武運の神様として著名。近江佐々木氏も戦いの前には戦勝祈願したという。六国史に見える古社で、本殿は室町時代（応永六年）に再建、明応元年に補修したものである。（国指定重要文化財）

19. 安楽寺千手観音立像



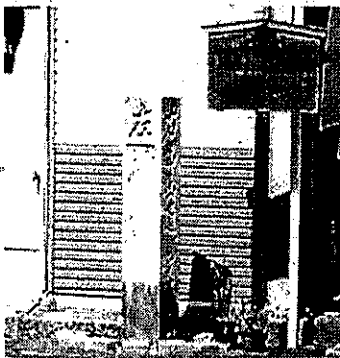
禅宗（黄檗宗）の本堂に安置された仏像で33年毎に開扉される。寄木造りの鮮やかな彩色像で、低い岩形台座に立ち、頭上に十一面の化仏を載せる。本手、脇手を含め40手をそなえる。頭光、天衣などのほかは造頭当初のままである。

20. 旧守山小学校玄関



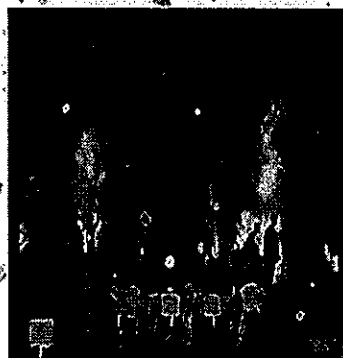
明治11年、明治天皇が滋賀県に行幸の時、守山小学校の新築で設けられた玄関。現在守山小学校に置かれているが最初は東門院境内で建築され、民家、更に市立図書館にも移転されていたが、守山小学校に因んで現在の場所に移築された。

21. 中山道石造道標



中山道と木浜道の交差点にある江戸時代の石造道標。「右中山道、美濃路」「左 錦織寺 このはまみち」とあり、背面の銘文には大津西念寺講中が延享元年（1744）に建立したことが刻まれている。石造道標としては古いものである。

22. 勝部神社火まつり



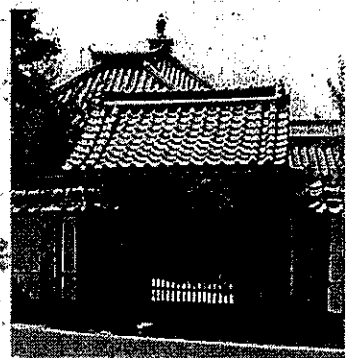
1月第2土曜日の夜8時頃に大松明に火が付けられる。土御門天皇の病氣平癒を祈念して創始されたと伝え、竜蛇になぞらえた大松明を境内に並べ、一斉に火が付けられる。若衆は火の周りで『ゴーヨ、ヒョーヨ』の掛け声をあげ、乱舞する。
県選抜無形民俗文化財

23. 最明寺石造五重塔



本堂前にある石造五重塔は、最明寺入道高頼が建長2年（1250）に寺院とともに建立したと伝える塔。初重の軸部は背が高く、四方仏が彫刻される。屋根石の軒反りの少なく、勾配もゆるい鎌倉時代の作品。境内で数回移築されたと伝える。（国指定重要文化財）

24. 十王寺



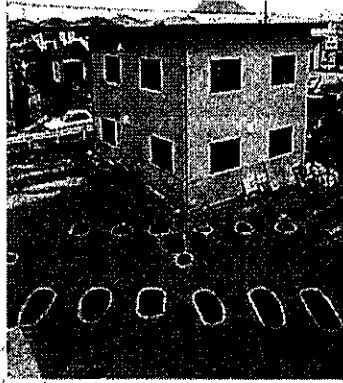
焰魔堂町の中山道沿いにある寺院。十王とは人間の死後の世界で生前の行いを裁く十王のことで閻魔大王などを指す。本堂にはこの閻魔像が祀られている。また、この寺は小野篁に因む古刹である。一遍上人絵巻には焰魔堂で念仏を唱える風景が描かれている。

1. 諏訪神社石碑



境内の北端にある石の碑で「従是南淀領」の文字が刻まれている。淀藩の領地を定めた目印である。江戸時代後半のものと思われる。

2. 伊勢遺跡



伊勢町、阿村町一帯に広がる集落跡。楼観、祭殿など今から約1800年前の弥生時代後期の大型建物跡が10棟集中して発見された貴重な遺跡。祭殿跡は伊勢神宮本殿のルーツという説がある。

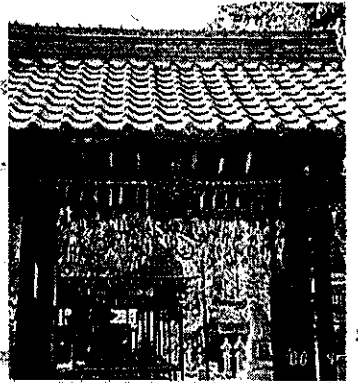
写真は祭殿と推定される建物跡。

3. 古高鼓踊り



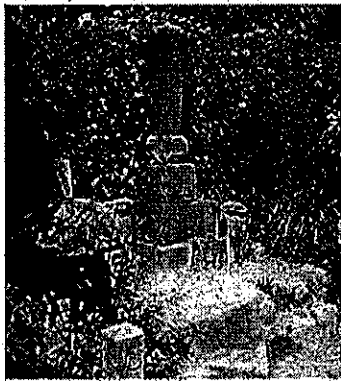
町内の大將軍神社境内で盛夏に奉納される民俗行事。早魃に雨乞いをし、雨をもらったときに奉納したというお礼踊りと伝えられる。18番の歌詞がある。踊りの実施は不定期だが、実施のときは8月の最終日曜日に催される。

4. 勸請吊り



古高大將軍神社境内の拜殿前の門の棟木につり下げられたもの。輪形の藁を幾つか連結している。冬に豊作を祈願して行われる。花飲請ともいわれる。

5. 住蓮房母公の墓



焰魔堂町の中山道沿いにある民家の庭にある。鎌倉時代の宗教統制時に、住蓮房が近江八幡市馬淵で捕らわれ、その母が住蓮に会いに行く途中で斬首刑になったことを聞き、近くの池に身を投げたことから地元の村人が哀れんで祀ったという墓。

6. 日吉神社



伊勢町に祀られる小さな神社で、伊勢神宮が三重県に固定するまでは岐阜、滋賀、奈良県などを移転したと記録にあるが、伊勢町の古老によるとこの神社は伊勢神宮の元であると伝えていたという。

日吉神社のクロガネモチ

鳥居の左側の石垣の上にある市内最大のクロガネモチ。

7. 福寿院の榎



福寿院の榎

古高家の墓地内には市内で最大の榎の木がある。幹の直径約50cm、樹高8mで300年以上の樹齢と考えられる。

8. 松塚古墳



古高工業団地内にある大きな古墳で長さ30m、幅約25m、高さ3mもある。昭和50年代まではその名のとおり古墳に松が繁茂していたが、松くい虫で枯れた。古墳の形は不整な方形であるとみられる。

幸田塚古墳

古高工業団地の西端にある小さな古墳で、直径10m高さ2mの円墳である。

狐塚古墳

古高工業団地東端の小さな古墳で、直径1.2m高さ2mである。現在は竹林となっているが、以前には稲荷が祀られていて狐塚と呼ばれた。古墳は東西にやや長い長方形である。

25. 一里塚



江戸日本橋からの各街道に一里毎に設けられた五間四方の大きさの塚。榎などが植えられ、馬、籠などの駄賃の目安となった他、樹木の影を休憩所として使われた。今宿一里塚は江戸から約127里の位置にあり、元は道の両側にあった。県内唯一の県指定交通史跡。

26. 木内石亭の墓



本堂に向かって左側の庭園の端にまつられている。石亭は江戸時代に石の長者と呼ばれた石の収集家で、坂本出身で草津に養子に出、本像寺の檀家であったことから、この地に埋葬された。本像寺には石亭の収集した寄石が保存されている。現代の考古学研究者の先学とされている。

27. 源内塚(薬師堂)



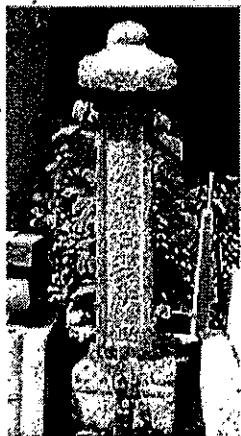
天満宮の背後の道を進むと路地の突き当たり小堂がある。平治の乱に敗れた源頼朝が敗走して守山宿に通りかかった際、源内に襲われるが、逆に首を跳ねた。地元の村人がそれを哀れんで祀った堂である。

28. 樹下神社常夜灯



境内南端の石積壇上にそびえる塔で、銘によると天保2(1831)年に伊勢屋佐七が建立したものである。屋根、火袋、軸石から成り、軸石以下に多数の人名や国名の銘がみられる。中山道、守山宿に關係する数少ない資料である。(市指定文化財)

29. 本像寺石造題目塔

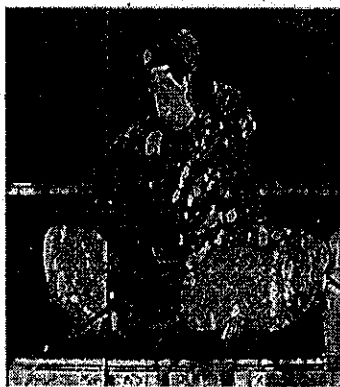


本像寺

今宿中山道沿いにある日蓮宗の古刹。朝鮮通信使を接待する龜山藩の宿となった寺院。

石塔は元は本堂に向かって右側の塚の上にあったが、現在は庭に安置されている。『南無妙法蓮華經』の文字が刻まれており、貞治六年の銘がある。他の1基は本堂西側の墓地にあり小型であるが大永四年(1524)の銘がある。

30. 天満宮三十六歌仙絵



天満宮は明治11年(1878)、明治天皇が行幸するまでは東門院境内にあった。京都の公家の高辻家で祀っていたが、明治になってこの場所に移転した。宿場当時には人馬繫ぎ場であったと想定されている。

三十六歌仙絵

社務所に江戸時代以前の作と考えられる板に色絵の人物像と歌が描かれた三十六歌仙絵全てが保存されている。

31. 大光寺銅造誕生釈迦仏立像



銅製誕生仏で高さ16cmほどの小型品。釈迦が誕生したときに「天上天下唯我独尊」と言った様子を表現した像である。

32. 守善寺石造宝篋印塔



山門をへって石塔群の端に安置されている。室町時代の塔で、一基は明徳もう一基は永享年間の作である。

屋根蓋石の反りが少なく室町時代の作として貴重。(市指定文化財)

9. 三津川



守山二丁目の東門院境内の少し西側から始まる3本の河川。東門院あたりでは1本の川であるが、下流の分水石により3本の河川（中川は三宅町、両川は金森町の田用水）に分かれる。江戸時代に水争いがあり3本の川に定石、幅杭が設けられた。現在の河川は改修工事後の姿。

10. 東門院木造不動明王坐像



本堂に向かって右側の護摩堂に安置されている像で国指定文化財。岩座に座し、憤怒相を表している。大きな木造の像で、寄木造。

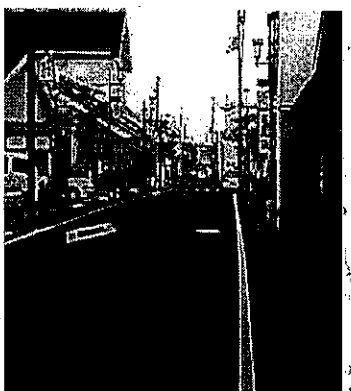
この不動明王像の両側には等身大の木造童子像がある。

11. 東門院五重塔、宝塔、宝篋印塔



境内の南端を流れる小川の岸に三基の石塔がある。左端の宝塔は相輪が後補であるが、基礎の四面は格狭間をつくり、軸石を扉を刻む。屋根石は軒反りが少ない。中央の五重塔は相輪と五重軸部を他から流用している。初重軸部を前後二石とし、薬師、阿弥陀を思われる仏像を刻む。軒反り、屋根の勾配は鎌倉時代の特徴を示す。右端の宝篋印塔も相輪上半を欠く。基礎石の四面には格狭間を入れ、開花蓮を刻む。宝塔とともに鎌倉時代の作。

12. 中山道守山宿



中山道守山宿は寛永年間に江戸幕府から制札を受けた宿場で「京発ち守山泊まり」と言われた中山道第67番目の宿場。宿場内の道路は吉身や今宿に較べて幅広い。賑わった当時の面影を残す家並みは暫減しているが道標、井戸跡などが保存されている。

14. 東門院高札



東門院木製高札

守山宿高札場に掲示されていた禁制など奉行からの告知板で元は6枚保存されていたが、火災で焼失した。現在は2枚のみ保存されている。正徳元年銘あり。

13. 東門院



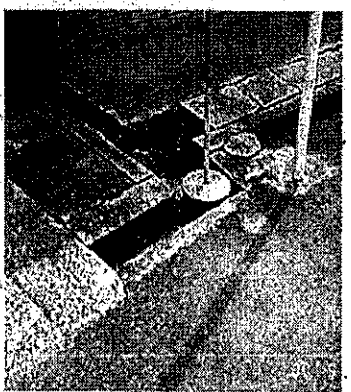
比叡山延暦寺の東の鬼門を護るために設けられたと伝える寺院。守山寺とも言う。昭和61年に罹災、幾つかの指定文化財を焼失した。江戸時代には朝鮮通信使の宿ともなった古刹。

15. 東門院オハツキイチョウ



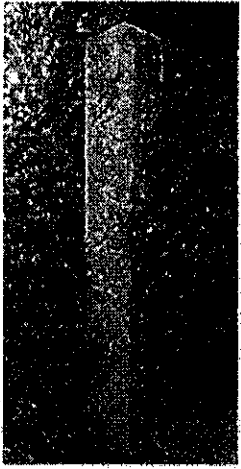
石造宝塔の背後の川岸にある大木。葉に銀杏が付くことからオハツキイチョウと呼ばれる。秋に採集できることがある。

16. 稲妻型屋敷割り



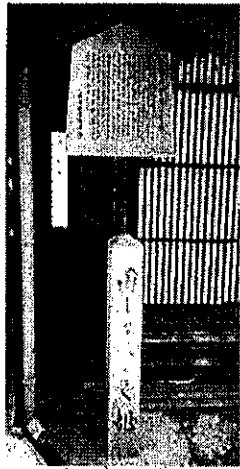
守山宿に面する民家の敷地は直線に並んでおらず、少しずつ石で段差が設けられている。宿場の治安維持を図るための工夫であると推定されている。特に道路の南側では端の石敷側溝にその跡が良く残っており、2尺前後の段差がある。

33. 教願寺石碑



教願寺(二町町)の境内にあり、江戸時代の淀藩の領地を示す石碑がある。「従是北淀領」と記されている。

34. 甲屋の跡



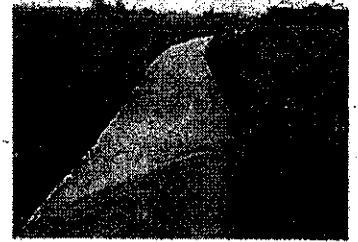
謡曲「望月」にある甲屋の跡とされるところで、仇討ちの場となった。

35. 古高俊太郎碑



幕末、勤皇の志士であった古高俊太郎を顕彰する碑で栗太郎教育会が建立した。著名な池田屋事件の前に新撰組に捕らわれ、斬首された。古高家の墓地は顕彰碑の西側の小堂の背後にある。

36. 志那街道



志那街道は中山道守山宿南端から分れて金森、大門、横江を通り、草津市志那港へ通じる道で、比叡山延暦寺へ参詣する道路として又、大津市坂本へ、京へ通じる近道でもあった。

写真は横江町地先。

守山学区の指定文化財

国指定文化財 地図にて表示

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
11	石造宝塔	建造物	鎌倉	昭23.4.27	東門院 萩原修観	守山2丁目	境内にあり、見学可能
11	石造宝篋印塔	建造物	鎌倉	昭23.4.27	東門院 萩原修観	守山 //	境内にあり、見学可能
11	石造五重塔	建造物	鎌倉	昭36.3.28	東門院 萩原修観	守山 //	境内にあり、見学可能
10	木造不動明王座像	彫刻	平安	明42.4.5	東門院 萩原修観	守山 //	申込み必要
22	勝部神社本殿	建造物	室町	大2.4.14	勝部神社 宮本嘉孝	勝部1丁目	外観は見学可能
19	木造千手観音菩薩立像	彫刻	平安	大15.8.30	安楽寺 佐藤泰典	勝部 //	見学不可33年前に開扉
23	石造五重塔	建造物	鎌倉	昭29.3.20	最明寺 石倉	勝部 //	境内にあり、見学可能
	木造毘沙門天立像	彫刻	平安	明42.4.5	東門院 萩原修観	守山2丁目	指定解除
	木造十一面観音菩薩立像	彫刻	平安	明42.4.5	東門院 萩原修観	守山 //	指定解除

県指定文化財 地図にて表示

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
22	火まつり(選択)	無形民俗	江戸	昭29.3.20	勝部神社 宮本嘉孝	勝部1丁目	毎年1月第2土曜日
25	一塵塚	史跡	江戸	平7.3.31	守山市生涯学習課	今宿2丁目	見学可能
3	鼓籠り(選択)	無形民俗	江戸	昭56.4.24	古高鼓籠り保存会	古高町大将軍神社	不定期に開催

県指定文化財 地図にて表示

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
10	木造弥勒菩薩童子立像	彫刻	平安	昭46.6.28	東門院 萩原修観	守山2丁目	申込み必要
10	木造制吒迦童子立像	彫刻	平安	昭46.6.28	東門院 萩原修観	守山 //	申込み必要
	串并蓮華文周縁鶴亀文笠瓦	考古資料	白鳳	昭49.8.26	南宮右衛門	守山 //	申込み必要
	忍冬唐草文字瓦	考古資料	白鳳	昭46.8.26	南宮右衛門	守山 //	申込み必要
29	石造題目塔	建造物	鎌倉	昭52.4.30	本像寺 藤岡瑛邦	今宿1丁目	見学可能
29	石造題目塔	建造物	室町	昭52.4.30	本像寺 藤岡瑛邦	今宿 //	見学可能
17	石造道標	有形民俗	江戸	昭52.4.30	守山市	守山2丁目	見学可能
13	山門躰平瓦	歴史資料	室町	昭52.4.30	東門院 萩原修観	守山 //	歴史文化財センターで保存
14	木製窩札	歴史資料	室町	昭52.4.30	東門院 萩原修観	守山 //	申込み必要
8	古高古墳群	史跡	古墳	昭52.4.30	守山市	古高工業団地内	見学可能
31	銅造誕生釈迦仏立像	彫刻	奈良	昭56.4.24	大光寺園城信晴	守山1丁目	見学不可
15	オハツキイチョウ	天然記念物		平9.4.1	東門院 萩原修観	守山2丁目	見学可能
30	三十六歌仙絵	絵画	江戸	平9.4.1	天満宮 拾井幸三	守山 //	申込み必要
32	石造宝篋印塔	建造物	室町	平12.5.10	守善寺 清水寛然	守山 //	見学可能
	木造千手観音菩薩立像	彫刻	平安	昭45.5.28	東門院 萩原修観	守山 //	指定解除
	宮座の遺構	有形民俗	江戸	昭52.4.30	東門院 萩原修観	守山 //	指定解除

吉身学区

吉身学区

① 歴史街道マップより

16. 慈眼寺(帆柱観音)



元は馬路石邊神社の神宮寺とも伝えられる。境内には本堂と薬師堂があり、本堂には帆柱観音が本尊として祀られている。この像はそのむかし円仁が中国で修行をした後、日本に帰る際に嵐に会い、観音様に導かれ、帰朝後、船の帆を刻んで祀ったとの伝承がある。

薬師堂には平安時代の薬師如来、鎌倉時代の日光、月光菩薩の2像が脇侍として安置されている。(市指定文化財)

写真上は薬師如来像。下は月光菩薩像。



17. 馬路石邊神社



平安時代の延喜式神名帳に記載された神社。境内は広く、鳥居は中山道に面し、山門は東を向く草葺きの四脚門。境内の森は天皇の森という伝承がある。

20. 豊年踊り



毎年5月5日に馬路石邊神社で奉納されるまつり。太鼓持ち、太鼓など近江のケンケト祭りに類似し、歌詞も小津神社長刀振りと同じ。昭和55年に復興された伝統行事である。(市指定文化財)

18. 明覚寺のクロマツ



山門を入るとみごとな枝を広げているクロマツ。

21. 田中神社の石



神社境内の鳥居の南側には大きな石で穴の開いたものがある。伝承では馬繫ぎとも言われるが定かでない。

19. 伊勢道



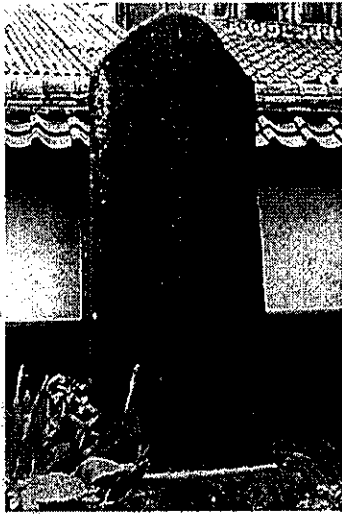
高札場跡から東に延びる道路が伊勢道。この延長が岡町の道標へと繋がる。

22. 西隆寺



天台宗の古刹。境内は岡塚山と呼ばれるように一段高い場所にある。草葺きの本堂で、益須寺跡に関わる縁起も保存されている。

1. 岡田逸二郎顕彰碑



幕末から明治にかけて、赤野井湾から石田をとおって吉身の馬路石邊神社近くまでの運河（石田川）水運を開拓した人。明治には衆議院議員にもなった。明治終わりに鉄道が開通したことから水運が衰退した。慈眼寺境内にある。

2. 石造阿弥陀像

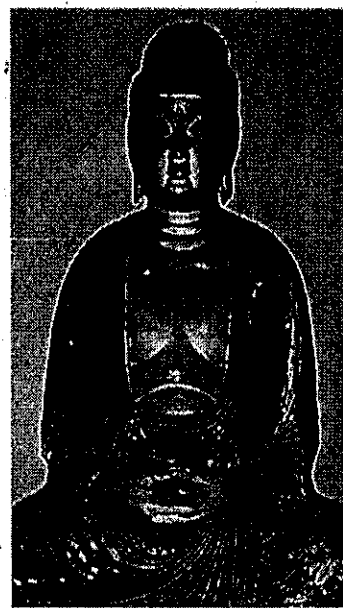


西隆寺本堂南側には広い墓地がある。その北端中央に石造阿弥陀像が安置されている。一石から刻んだ坐像で、彫りが深い。鎌倉時代の作である。（市指定文化財）

3. 東福寺



天台宗の古刹。小さな本堂に四軀の仏像が安置される。中央左側に薬師如来(写真上)、右に如来形坐像(写真下)、両側に菩薩形立像がある。薬師如来は国指定重要文化財。他は県指定文化財である。如来形とは薬師、大日などの如来の形を限定できないことから、また菩薩も月光、日光など菩薩の形状が限定できないことからこの名で呼称している。



4. 東福寺のツキミ



本堂の右側にある常緑樹。枝や葉を折ると香気があるので葉や樹皮を湯かして抹香、樹皮から線香をつくったという。

5. 中山道高札場跡



慈眼寺から北へ約100mの地点で東に延びる道路との交差点あたり。道が屈曲していることもあって遠見遮断の場所とも言われる。

6. 岡寺山古墳



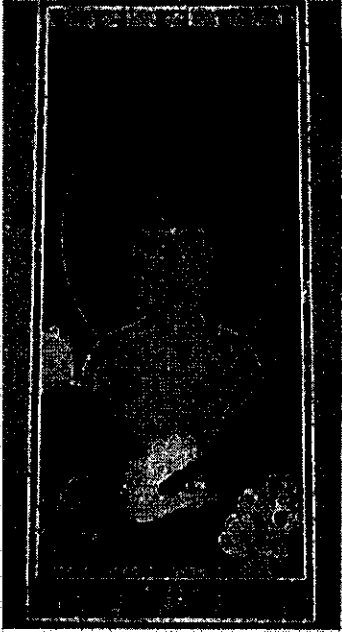
自治会館の敷地に1号墳、その南約50mに2号墳がある。いずれも15mほどの円墳で、6世紀のこのあたりの有力者の墓であろう。（市指定文化財）

7. 岡のムクノキ



立入が丘小学校近くにある大木。大気汚染には弱い。秋には隣のイロハモミジの紅葉と合わせて眺めが良い。

23. 西隆寺山越阿弥陀図



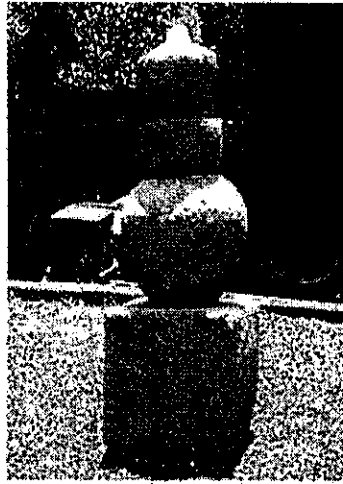
絹本着色の絵像で、山の間から阿弥陀が来迎する様子が描かれている。阿弥陀来迎とは仏と阿弥陀が衆生を救うために現れる様子を表したものである。(市指定文化財)

24. 西隆寺のヨウヤクノキ



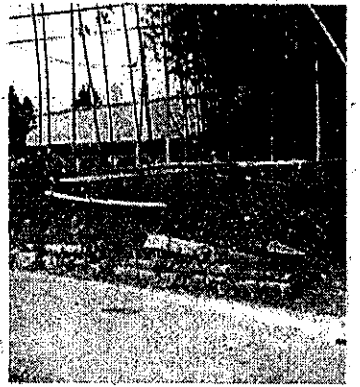
境内にイチョウやクスノキに混じって植えられている。

25. 西隆寺経塚



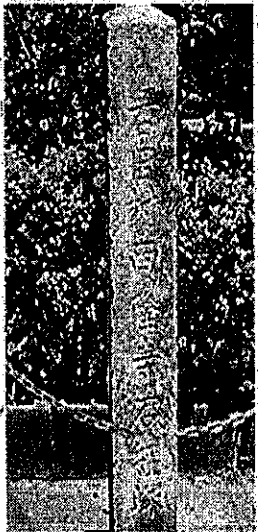
山門の東側にある五輪塔の下から発見されたもので、一字一石経が出土した。

26. 立入城跡



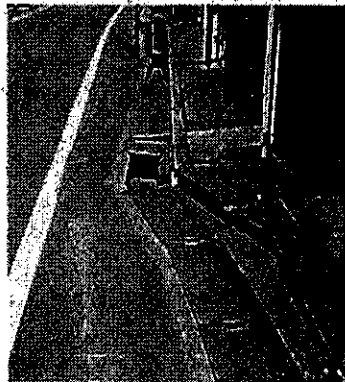
立入町一帯にある城跡で城主は立入宗継。安土桃山時代に織田信長につき、京都で商売を行い勢力を持ち、御倉職になる。町内に残る竹林などに土塁が見られる。

27. 石造道標



伊勢への参詣道に設けられた道標で「左 西隆寺経塚」「右 伊勢道」と刻まれている。細い道路の道端にある。

28. 吉身の稲妻型道路



中山道の吉身地域では、道路が数10mでわずかに屈折している様子がみられる。現在はコンクリートの溝で見にくくなっているが、ゆっくり歩いて観察すると道路の両側にみられる。

29. 新川神社



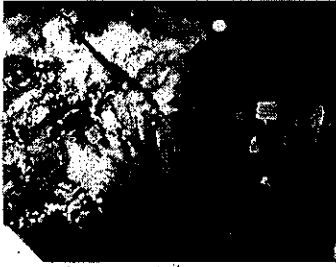
平安時代に編さんされた延喜式(えんぎしき)神名帳に記載された古い神社で野洲川に関わる名称をもつ。幸津川町にはト新川神社、野洲町には新川神社がある。

30. 石造地藏



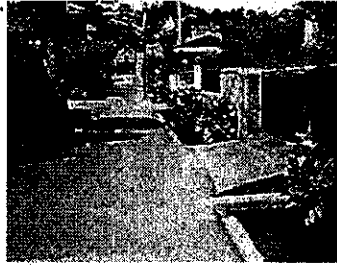
境内には石造地藏像があるが、野洲川の河川敷地で発見されたもので、室町時代の作と考えられる。

8. 火まつり



1月第2土曜日の夜に松明に火が付けられる。町内の若衆が禪姿になり、境内の小屋に設けられた火種から競って火を付ける古式豊かな伝統行事である。

9. ハリヨ



浮気町内の水路で飼育されている。昭和30年代までは市内のきれいな川には棲息していたが、後の水質悪化により消滅した。現在浮気自治会で復活の取り組みがなされている。

10. 下之郷遺跡



弥生時代の巨大環濠集落跡で、銅剣盾、ジャポニカ米などが発見され注目を浴びている東西約330m、南北280mの巨大な遺跡である。

11. 地藏堂



住吉神社の境内東端に小さなお堂がある。室内には千体地藏と中央に地藏が安置されている。江戸時代後期に建立されたものである。

12. 浮気城跡



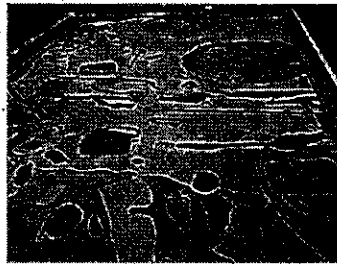
住吉神社境内と町内に土塁が巡っている。神社境内には幅2m、高さ1.5mの土塁と濠があり、町内にはこの続きの土塁や濠が円周状に残存している。

13. 源昌寺のガジュマル



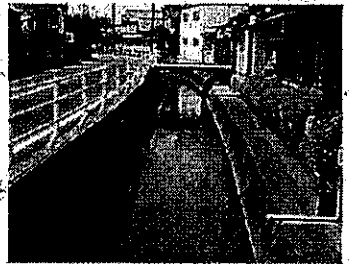
境内にイチヨウと並んで植えられた市内最大の樹齢約200年の古木。

14. ニノ畦・横枕遺跡



吉身、守山、播磨田町にまたがる弥生時代の巨大集落跡で、直径15m前後の大型竪穴住居や掘立柱建物、井戸跡などが発見されている。井戸跡の木材は紀元前97年に伐採されたことがわかっている。

15. 石田川



吉身から下之郷、石田、赤野井を通過して琵琶湖に至る河川。川の両側に船を引く道路がある。岡田逸二郎が開拓した河川で、明治初期に利用されたが、鉄道普及で衰退した。写真の川の右側には舟引き道が残されている。

31. 吉身小学校講堂



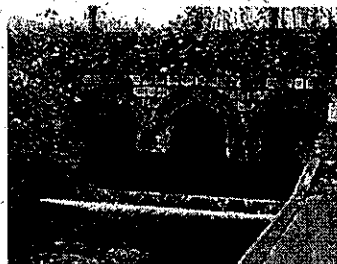
旧吉身小学校は現在の市役所にあつた。写真は学校の講堂で平成12年(2000)に解体された。建物の丸柱の一部は現吉身小学校などに保存され、鬼瓦も保存された。

32. ホタル



昭和30年代に一度消滅したゲンジボタルが平成10年頃から復活した。守山地先の三津川とともに、吉身のこのあたりでもゲンジボタルが飛びかう姿がみられる。是非たいせつにしたいものである。

33. JR橋



JR線の下にある右横みの三連橋で立入町から流れる川に架かる橋。JRの記録によると明治初期に造られたことがわかる。市内で唯一の三連橋である。

34. 吉身西遺跡



県立成人病センターを中心に直径1kmもある縄文時代後期から平安時代にかけての大集落跡。これまでに数多くの発掘調査が行われた。

写真は弥生時代中期(今から約2000年前)の方形周溝墓と呼ばれる墓跡

小津学区

小津学区

① 歴史街道マップより

小津学区の見どころ

守山市西域に位置する小津学区は琵琶湖に面しており、対岸の比叡山や比良山系の美しい景色を眺望することができます。

「日本書紀」安閑天皇二年（535年）に「近江国葦浦屯倉」の記載が見られますが、「屯倉」とは大和朝廷の領有地で、近江国葦浦屯倉の葦浦とは現在の草津市葦浦、屯倉は三宅（町）として現在に名を残していると考えられていて、小津学区の開発の古さを物語っています。中・近世には、織田信長、あるいは蓮如など日本の歴史に大きな影響を与えた人物が小津学区に足跡を残していますし、近世以前、比叡山への参詣で賑わった「志那街道」、年貢米などの運搬に利用された「馬街道」は琵琶湖の湖上交通と連絡し、人々の往来や物資の流通に重要な役割を果たしてきました。小津学区とは、交通の要衝として文化を発展させた地域で、小津神社をはじめ、数々の文化財や歴史遺産、そして自然を今もなお、保持している地域です。

17. 欲賀城跡



欲賀城は欲賀町集落の西側にある一段高い畑地に推定されている城跡である。伝承では、豊臣秀吉に従った本間氏の居城と言われている。発掘調査では、中世（鎌倉～室町時代）の集落跡が確認されている。

18. 欲賀寺跡



欲賀寺は白鳳期の寺院として、この一帯に寺域が推定されている。浄光寺（欲賀町）には「欲賀寺縁起」が所蔵されている。大和（奈良県）大安寺の流起資材帳にも関連した記載もみられる。大津市北部で発見される方形瓦が出土しているが、詳細は不明。

19. 水渡神社



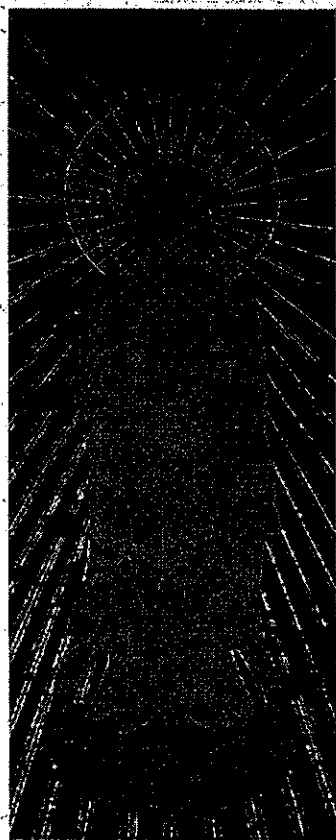
欲賀町集落の南辺に位置する神社で、「みくまり」神社という。小さな祠で、城陽市（京都府）の寺田から分祀したと伝えられる。

20. 慶先寺



山家（山賀）道場とも呼ばれた古刹。蓮如の旧跡で直筆の十字名号や親鸞上人御影などの什物が保存されている。また、境内の収蔵庫脇のイチョウは幹回り195cm、樹高17mと巨木である。

21. 筋後光正面阿弥陀如来画像



慶先寺に伝わる絹本着色親鸞上人御影は、親鸞が二狭間の礼盤に、蓮如が高麗縁堂にそれぞれ連座する画像で、全国的にも数少ない貴重な画である。裏書によると文明七年（1475）五月十六日に下付されたことがわかる。また、絹本着色筋後光正面阿弥陀如来画像は、蓮華座の上に立つ阿弥陀如来の光背から放射状にひろがる後光が描かれている画像で、室町時代初期の作風が窺われる。共に市指定文化財である。

22. 親鸞聖人御影



23. 山賀・薬師堂



自治会館横の山賀・薬師堂は、薬師講が守っている小堂。本尊は薬師如来立像と龍王が祀られている。かつて村々では、焰魔講、観音講、薬師講などの「講」が組織され、伝世する尊像が信仰されていた。

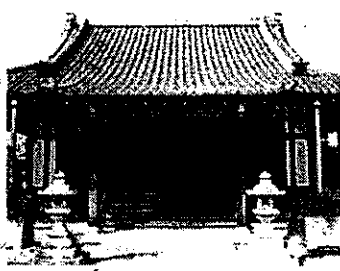
1. 金神社



金神社は県立守山高校の西側にある金森町の鎮守。阿弥陀如来像が御神体として祀られていると伝えられる。

境内の2本のアカマツは幹回り2mを越え、市内でも数少ない大樹である。

2. 金森御坊



応永二十三年(1416)、川那辺弥七郎矩厚は存如に帰依し、道西と名乗った。道西は、室町時代後期に大阪を追われた蓮如を金森に迎えて、道場(御坊)を構え、教化に努めた。現在の本堂東側に道西旧跡の顕彰碑が建てられている。

3. 「蓮如の逆さ葺き」

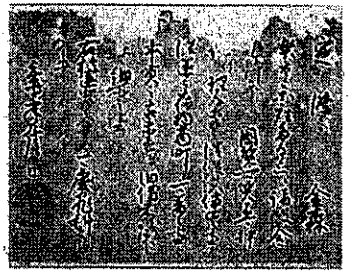
金森道場、あるいは懸所とも呼ばれた寺院。今は見ることができないが、御坊の屋根は茅葺きで、「蓮如の逆さ葺き」という逸話が残っている。その昔、蓮如が屋根の葺き替えを手伝ったが、上下逆さまに手渡すのに遠慮して、逆さに葺いたことからこう呼ばれた。

4. 金森懸所宝塔



金森御坊の境内、本堂の南側に安置された石造宝塔。基礎を四石として外面に孔雀を刻んでいる。軸石には柱や扉の彫刻がある他、屋根石は反りが少なく、宝輪も完存している。鎌倉時代の石造宝塔として、国内三大名塔の一つと言われる。

5. 織田信長朱印状



元龜三年九月、織田信長は金森に桑市桑座令を出す。諸役、免許の特権(非課税)、往還の荷物は金森を通過集散する流通規制策、年貢や借米銭の債務破棄の特権が与えられるという内容である。このことによって元龜の合戦で荒廃した金森が繁栄することになる。善立寺所蔵。

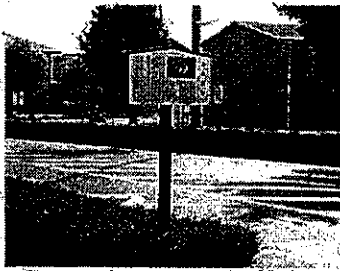
6. 金森城跡



金森町の中央から南側にかけての位置にその所在が推定される城跡。「城ノ下」などの小字名が残っている。

織田信長が元龜三年(1572)にここに拠点を置いた一向宗と戦い、攻め落とした城。現在も竹藪に土塁が保存されている。

7. 井戸跡



城ノ下団地の入り口、くすのき通りの歩道に鎌倉時代初めの井戸跡が保存されている。

現在は説明板が設置されているだけで見ることはできないが、井戸は川原石を積み上げて枠をつくり、内部に縦板を八角形状に組み、湧水を汲み上げていた。

8. 三津川下流の宝塔基礎石



県道金森線とくすのき通りの交差点から北へ100mの地点の道路西側の河川は一本の水路が二つに分かれている。

鎌倉時代の宝塔の台石が分水石の基礎に使用されていたことがわかり、この場所に安置されている。

24. 山賀城跡



山賀町集落の西側の民家は一段高い敷地と屋敷周りに堀を備えている。琵琶湖に近いこともあるが、中世の武士の館を残存する姿であろう。

25. 岩崎神社



岩崎神社は浜街道沿いの森川原町集落東端にある小さな神社である。境内は一段高くなっているが、周辺の発掘調査で江戸時代の屋敷跡があったことがわかっている。

26. 小津神社本殿



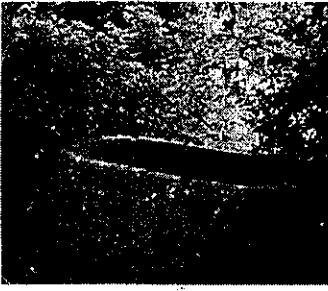
広大な原生林のような森を備えた古社で、延喜式神名帳記載の神社(式内社)である。三間社流造りの本殿は国指定重要文化財で、社伝によると現在の社殿は大永年間に再建されたもので、桑朴さと華やかさを併せ持つ室町時代の建築様式を示している。

27. 宇迦乃御魂命坐像



小津神社の御神体として本殿に祀られている木造宇迦乃御魂命坐像は、像高約50cmの一本造りの彩色像である。仏教の盛行と神仏習合思想の高揚によって神像が造られるようになったが、松尾神社、薬師寺とともにわが国三神像の一つにあげられる平安時代の秀作である。

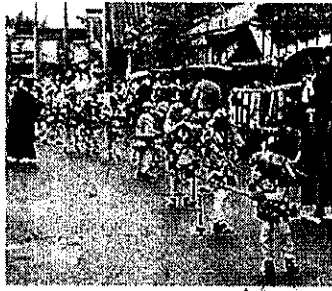
28. 小津神社岩風呂



境内の社務所前の庭に、長さ1.2m、幅80cm、高さ65cmの大きさで内部をくり抜いている石がある。

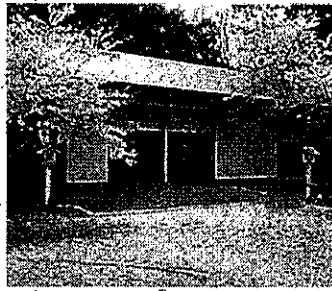
これは中世の貴族などが使った風呂で、水を張り、焼けた石をいれて湯を沸かしたものである。

29. 小津神社長刀振り



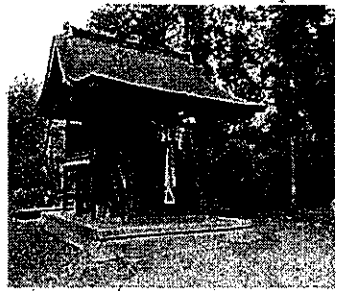
毎年5月5日に奉納される長刀振りは長刀、シロツク、横笛、鉦、夕ボオ太鼓、音頭取りが行列をつくり、賑やかに取り行なわれる。この例祭はその昔、水害で流された御神体を湖から迎えるという故事による。サンヤレは「幸在れ」から変化したもので、サンヤレ祭りと呼ばれる。

30. 小津神社長刀振り保存館



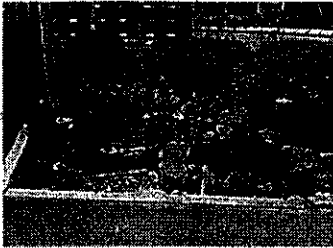
現在、長刀踊りは小津、玉津学区の8自治会で持ち回りされているが、「長刀振り保存館」は御輿や長刀踊りの道具を保管、展示するため、昭和53年に建てられた。本殿に向かって左側にある。

31. 小津神社三之宮本殿



小津神社の大鳥居を潜って参道を進むと左側に杉江町自治会館がある。その裏手に三之宮本殿が祀られている。一間社流造りの本殿で、中世末期の安土桃山時代の建築様式を残している。三之宮だけが境内から離れて祀られる。

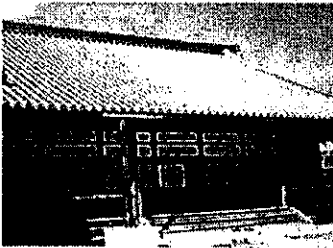
9. 蓮如池



金森御坊東側約50m先の民家の敷地に小さな池がある。

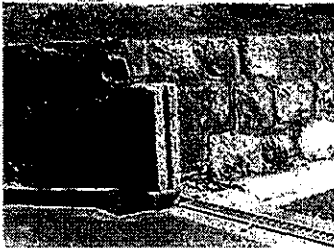
伝承によると蓮如が杖で地面を突いたところ、水が湧き出したことから「蓮如池」と名付けられた。そしてどんな旱魃でも干上がることなく水をたたえていたと伝えられる。

10. 蓮生寺本堂



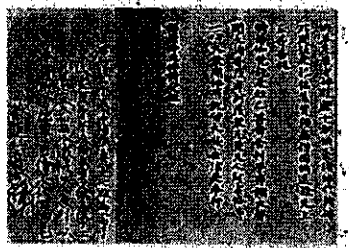
真宗の古刹で、本堂は江戸時代初期の元和元年(1615)の再建である。軒高や屋根が低く、真宗寺院としては古い形を保っていることから県指定文化財に指定された。昭和61年に修理が行われ、江戸時代初期の建築が再現された。三宅道場とも呼ばれた。

11. 水止め石



蓮生寺山門への参道入り口両側に縦に溝が彫られた石が一對建っている。洪水時に石の溝に戸板をはめて水の侵入を防止した。

12. 称賢浄土仏撰受経



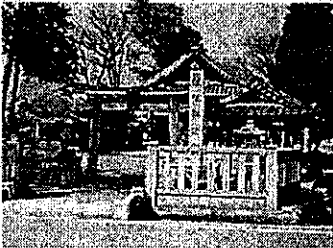
称賢浄土経とは阿弥陀経の異訳である。奥書によると、蓮生寺の称賢浄土経は、天平宝字七年(773)に中将姫が願主となって奈良当麻寺で、千巻書写されたうちの一卷と伝えられる。黄麻紙に腫脹な文字で書写されている。奈良時代の経本として秀品である。

13. 三宅城跡



蓮生寺一帯に想定される城跡。現在も寺東側の竹藪に土塁が保存されている。元龜二年(1571)、織田信長の宗教弾圧に蜂起した門徒に対して金森攻めを行った時に出城となったが、金森城と同時に陥落した。その後、信長は比叡山の焼き討ちを行った。

14. 熊野神社



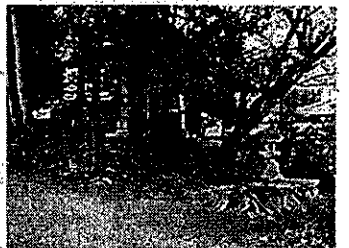
三宅町の東端に鎮座する神社で、小さな本殿には將軍地蔵が安置され、本殿前には中世の荘園である湯生荘の文字のある灯籠が安置されている。神社境内には、神木であるナギの他、クスノキ、ケヤキなど樹令を重ねた古木が多く生育している。

15. 薬師堂の仏頭



三宅町の中央北側にある薬師堂には国指定重要文化財である仏頭が安置されている。桧材の一本造りで彩色と金箔は落ちていますが、穏やかな面相をしている。現在は首から下が復元され、薬師如来として信仰されている。

16. 大林城跡



大林町集落の西辺に位置する八幡神社の境内に一段高い場所があり、大林城の推定地になっている。城主は不明。また、神社境内の神木であるサカキは幹回り116cm、高さ約10mで市内最大のサカキである。

32. 護摩堂



護摩堂は現在、杉江町集落のほぼ中央に位置しているが、元は小津神社境内にあった。明治の神仏分離令によって境外のこの場所に移されたと言われる。

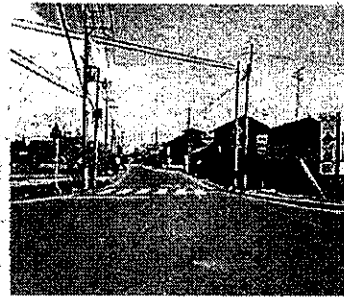
堂内には、仏涅槃図や小仏像が安置されている。

33. 庭塚古墳



金森町山柿団地西側の小さな林があるが、庭塚古墳と呼ばれている。周辺部の調査で古墳の形は前方後円墳と考えられ、幅約10mの周濠が巡っていることがわかっている。昭和49年には水路改修工事で埴輪が出土している。

34. 志那街道



京、江戸を結ぶ中山道の他に、琵琶湖の湖上交通も重要な道であった。

志那街道は守山宿から金森、大門、横江、長束、片岡を経て志那港(草津市)に至る道で、対岸の下坂本、大津に着いた後に京に上る。志那街道は江戸初期まで盛行していた。別名、比叡山街道ともいう。

35. 馬街道



金森町で志那街道から分かれて琵琶湖に向かって真っ直ぐに伸びる人工道路で、中～近世、年貢米などの物資を運ぶ牛馬の往来が激しかったことから、「馬街道」と呼ばれるようになった。しかし、杉江町の東側では、ほ場整備によって道筋が失われつつある。

小津学区の指定文化財

国指定文化財 地図に○で表示

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
4	石造懸所宝塔	建造物	鎌倉	天14.4.24	守山市(管理団体)	金森町	要連絡
15	木造仏頭	彫刻	平安	明42.4.5	蓮生寺	三宅町	//
26	小津神社本殿	建造物	室町	明39.4.14	小津神社	杉江町	
27	木造宇迦乃御魂命座像	彫刻	平安	明42.4.5	小津神社	杉江町	非公開
29	近江のケンケト祭り・長刀振り	無形民俗		昭59.12.20	小津神社長刀踊保存会	杉江町	

県指定文化財 地図に○で表示

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
5	織田信長朱印状	書跡	安土桃山	平10.6.19	誓立寺	金森町	要連絡
10	蓮生寺本堂	建造物	江戸	昭59.3.30	蓮生寺	三宅町	//
12	称讃浄土経	書跡	奈良	昭49.8.26	蓮生寺	三宅町	//

市指定文化財 地図に○で表示

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
11	蓮生寺境内	史跡	江戸	昭52.4.30	蓮生寺	三宅町	
21	絹本着色筋後光正面阿弥陀如来画像	絵画	室町	昭56.4.24	慶先寺	山賀町	要連絡
22	絹本着色親鸞聖人御影	絵画	室町	昭56.4.24	慶先寺	山賀町	//
31	小津神社三之宮本殿	建造物	室町	昭45.5.28	小津神社	杉江町	

玉津学区

玉津学区

① 歴史街道マップ

玉津学区の見どころ

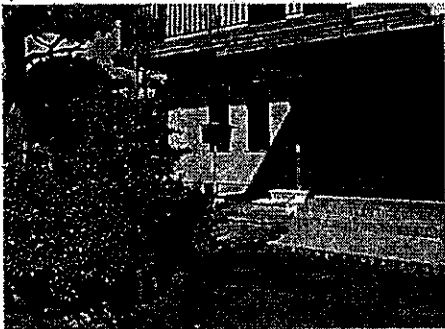
玉津学区は豊かな文化財と自然に恵まれ、宗教上の遺作に多く触られます。赤野井町は、条里制以前の地割りが良く残っており、馬場もそのひとつです。町の中心に東西両本願寺の赤野井別院が建ち、周りを両派の寺院が囲んで運如らの教化の跡を知ることができます。庄屋屋敷として名高い諏訪家の庭園には、三井寺の円満院から移築された茶室があり、そのたまたまに歴史の深みが感じられます。寺社や屋敷が町の中央に集まり、周囲に商家などが見られ、寺内町的な雰囲気が味わえます。

矢島町の真中にある少林寺は、とんちで有名な「一休さん」ゆかりの寺として知られ、関係する文化財が多く残されています。荒見道場から寺院となった聞光寺は、運如上人の影響を受け、庭園などに足跡を知ることができます。一休さんはこの聞光寺も訪れたと伝えられています。

石田町は、人工河川の石田川が縦断し、その両側に発達した1社1寺の町。屈曲する細い路地は、「石田の七曲がり」と呼ばれ、城郭との関わりが考えられています。

十二里町は条里制の地名を唯一残す町で、歴史上、赤野井町とつながりが強いところです。

13. 矢島御所



室町幕府最後の将軍、足利義昭が永禄8年~9年(1565)にかけて居た館をいう。現在の自治会館あたりが御所と呼ばれ、明治6年の地図には土塁が周囲を囲んでいたことが知れる。また、建替え以前の会館はその建物の一部が使われていたと伝えられている。

14. 矢島城跡



矢島町集落の北、東側で、小字名に垣内、東白(城)などの地名が残っていて、少林寺境内や民家の敷地には少し盛り上がった土塁があり、城を示す痕跡が認められる。

この他、少林寺南側にも屋敷田の小字がみえ、城跡に因む地名が残る。

15. 少林寺



一休和尚の高弟、桐嶽紹鳳が文明2年(1470)に開基したと伝えられる寺。臨濟宗大徳寺派に属す。

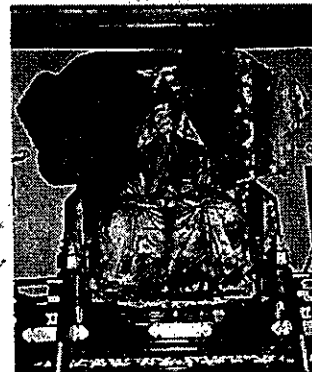
県、市指定の多くの文化財が残されているほか、境内には一休さんの昔話に出てくる雪封じの井戸や江戸時代前期の鐘、石塔がある。

16. 少林寺仏涅槃図



涅槃図とは釈迦入滅を描いたもの。図は縦長形式で、構図から鎌倉時代以降に多く見られる定型化した涅槃図の一例。屈折の激しい線画を多用し、的確な描き方は、宋、元の影響を受けたものらしい。全体に落ちついた明るい色調で整えられている。

17. 少林寺木造一休和尚坐像



椅子に座った姿で、高さ82.5cmの等身大の像。京都大徳寺、京都しやうざんあん酬恩庵の木像に通じ、意匠も類似している。

檜材の寄木造で、頭部から首は別材で仕上げ、襟に差し込み、彩色仕上げとしている。少林寺法度から室町後期頃の作像と思われる。

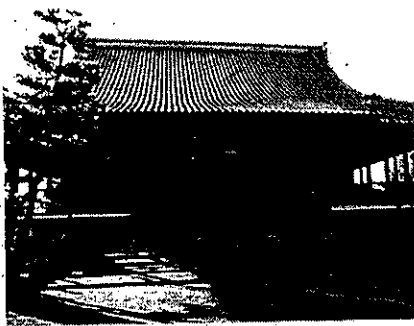
18. 少林寺一休和尚像



什物の一休和尚像は、墨谿の筆による肖像画。椅子に坐した像と太刀が描かれている。享徳元年(1452)の銘があり、

一休和尚自らの賛文があることから、和尚存命中に完成された肖像画と考えられている。

1. 赤野井東別院



真宗大谷派の別院で、大恩寺ともいう。本堂は大規模な入母屋造。内陣、外陣に分かれ、このうち内陣に近い外陣1間分は広縁を取り込んで矢来間としている。棟札と高欄擬宝珠の刻名から、文化6年(1809)の建立であることがわかる。

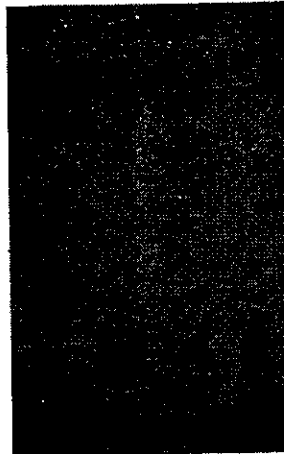
2. 大黒松(赤野井東別院)



本堂に向かって左側に植えられているマツで、幹回りが164cm、高さは8mを測る。根元からは何本もの幹が

枝分かれして伸び、上のほうで傘のように広がっている。ウツクジマツは樹形が似ているが、クロマツを台木にしてつぎ木されたもの。

3. 光明本尊(赤野井西別院)



本願寺派赤野井別院として東面する伽藍を誇る。江戸時代後期の本堂には絹本着色光明本尊の絵画が保存され、念仏者の像を描いたも

ので、室町時代の作。

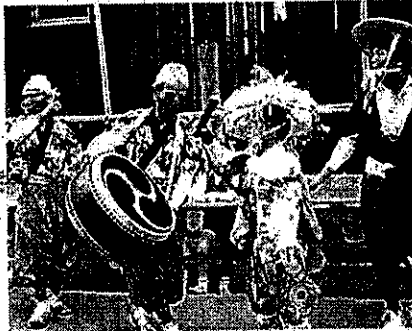
京都仏光寺で親鸞の教化を受けた人達が各地で教化活動に用いたという。

4. 諏訪家屋敷



諏訪家は、室町時代に足利尊氏に従った諏訪円忠が地頭として着任したことに始まり、江戸時代には大庄屋を勤めた。約4,000㎡の敷地には、母屋、客殿、茶室等を備え、池泉回遊式の庭園がある。茶室裏の石垣には石積みの潜口があり、船が出入りした。

5. 馬場



小津若宮神社から南に向かってほぼ真っすぐにのびる道路。延長約340mもあり、南端にはお旅所が見られる。毎年、5月5日に行われる小津神社例大祭には、この馬場いっばいに長刀振りや稚児行列などが賑やかに催される。

6. 釈迦堂



諏訪家の北側にある平屋の小さな建物。江戸時代には白州が置かれたという。堂内には平安時代の頃の作とされる薬師如来が安置されている。

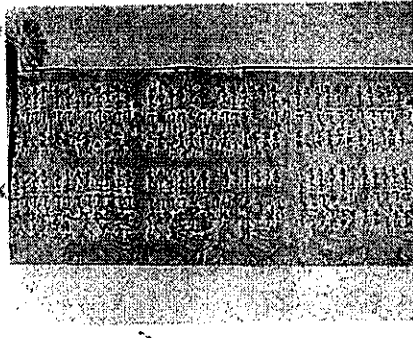
19. 少林寺紙本墨書法度



少林寺を興した桐嶽招鳳が、大永5年(1525)に寺の規範と由緒を表したもので、寺の守護を念じてしたためられている。

現在のものはこれを写したもので、縦26.9cm、横41.6cmの寸法を測る。室町時代中期の時期と考えられている。

20. 少林寺靈山和尚法度

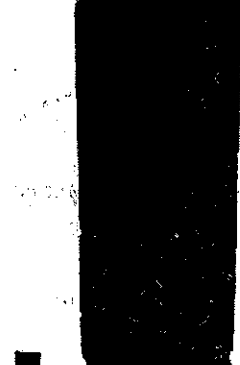


京都大徳寺の靈山和尚が、山門で遵守すべき条を應安元年(1368)に定めた法度で、少林寺にも所有されていることは、禅刹としての規範を整えようとした経緯が読み取れる。

26

鎌倉時代のもので、紙背には見洋蔵が

21. 少林寺一休和尚像板木



たくさんの信徒に和尚像を求められたために、作成されたと考えられる。

板木の裏面には、「延徳元年霜月」

(1489)の銘がみられることから、没後9年経って作られたものとわかる。少し傷みがあるが、保存状態はよい。

22. ギンモクセイ (少林寺)



境内の本堂前にあって、全国でも屈指の大木とされている。一休和尚お手植えと伝えられ、幹回りが265cm、高さ12mもあり、樹齢が約500年以上といわれている。秋には白い花を咲かせるが、匂いはあまりない。

23. 天保義民の庄屋宅



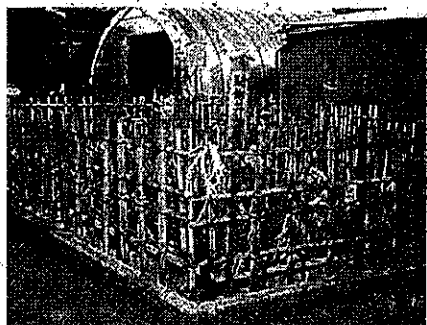
天保13年(1842)に起こった近江三上山騒動(一揆)は天保義民と呼ばれ、この時、矢島村庄屋を務めていた林彦宗左衛門の屋敷。家は江戸時代後期頃に草葺き母屋と門が今も保存されている。

24. 聖観音菩薩座像



黒い蓮華座の上に安置された仏像の顔は、ぶくよかで未法の世に深い慈悲をこめた立派な調和が見られる。背の内面の銘から長元2年(1029)~長暦2年(1038)までの間に作像されたことがわかる。もとは普門院にあったが、堂が古くなったため現在の収蔵庫に移った。

7. 閼迦井(池)



釈迦堂前の小さな池。閼迦とは仏前に供える水を、井は井戸を言う。弘法大師がこの地を訪れた時、清水が湧いたという。後には、一向宗と叡山僧兵の和睦にこの水が比叡山に供えられたと伝えられている。盛夏には植えられた蓮が綺麗な花を咲かせる。

8. 分水石



県道赤野井・守山線(赤野井道)から玉津小学校へ曲がる角あたりの川沿いにある。大川から水分けをするために使われていたらしく、今はそのまま保存されている。

9. シイノ木(小津若宮神社)



神社境内の西端にある大きな木で、枝葉は、境内を大きく包み込むような形で生い茂っている。

幹回りが365cm、高さ20mもあり、市内にある高木の中でも十指にはいる。秋にはたくさんの実をつけ、収穫することができる。

10. 五ヶツ、オハツキイチョウ(常照寺)



中庭の庭園は見事なもので、その中にある古木のゴヨウマツは、高さ6m、幹回りで90cmもある。常に手入れがいきとどいていて、すばらしい樹形を作っている。また、境内のイチヨウの木は、葉にギンナンが付くオハツキイチョウである。

11. しだれ柳(常照寺)



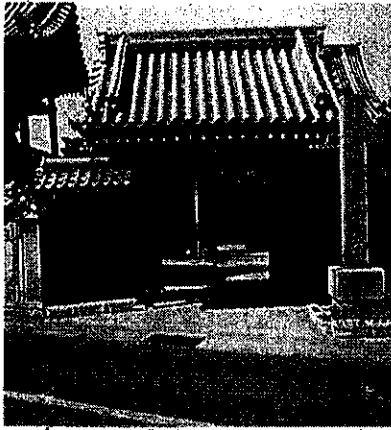
赤野井町浜にあるこのしだれ柳は、蓮如上人が琵琶湖より上がって食事を取り、その箸を地面に刺したところヤナギになったという伝承を持つ。高さが6mあり、幹は空洞化しているものの風格を感じさせる。枝葉も多くなると周囲の草木と調和して風情が感じられる。

12. ラカンマツ(常照寺)



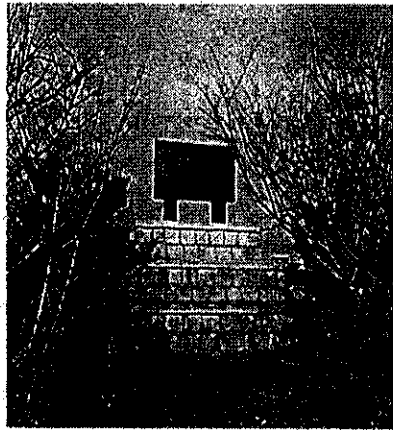
本堂の前に2本を対にして植えられており、向かって右側の木の方が大きく、みごとである。古い時代に中国から渡来した木で、自生ではないようである。十月頃にできる紅色の実の形が羅漢に似ているのでこの名が付いたようである。

25. 真光寺



真宗大谷派の寺院で本堂、太鼓堂、鐘楼、山門、経蔵、書院、庫裡からなる。このうち本堂は、入母屋造で桁行7間、梁行8間に向拝1間が付く。棟札から元禄11年(1698)に再建されたことがわかる。三宅町蓮生寺と同じく屋根や軒の高さが低く、真宗寺院建築として古い。

26. 六条堤



江戸時代の初め、赤野井の伊賀坊了誓いけぼうりょうせいと矢島の矢島松齊やじましょうせいが、野洲川の洪水から村や田畑を守るために築いた堤。高さ3m、延長3kmの規模を誇ったが、土地改良で削平をうけ、現在では堤のあった所に2人の功績を讃えた顕彰碑が残されている。

27. 佐々木街道



近江源氏佐々木氏が近江を支配していた頃、本拠地から京への近道として整備された重要な要路。

玉津学区では、矢島町の間光寺前から矢島町の東側を通過して、赤野井町を横断し、赤野井港へと達する。

玉津学区の指定文化財

国指定文化財

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
24	木造聖観音菩薩座像	彫刻	平安	明42.4.5	管理団体 守山市	矢島町	要連絡

県指定文化財

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
16	仏涅槃図	絵画	鎌倉	昭62.3.30	少林寺	矢島町	要連絡

市指定文化財

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
3	絹本着色光明本尊	絵画	室町	昭50.10.23	赤野井西別院	赤野井町	
4	大庄屋諏訪家屋敷	史跡	江戸	昭52.4.30	諏訪安茂	赤野井町	要連絡
17	木造一休和尚坐像	彫刻	室町	平12.5.12	少林寺	矢島町	//
18	絹本着色一休和尚像	絵画	室町	昭50.10.23	少林寺	矢島町	//
19	紙本墨書少林寺法度	書跡	室町	昭50.10.23	少林寺	矢島町	//
20	紙本墨書靈山和尚法度	書跡	室町	昭50.10.23	少林寺	矢島町	//
21	一休和尚像板木	歴史資料	室町	昭50.10.23	少林寺	矢島町	//
22	銀木屨	天然記念物	室町	平9.4.1	少林寺	矢島町	//
29	間光寺庭園	史跡	室町	昭52.4.30	間光寺	矢島町	//
30	絹本着色大谷本願寺親鸞聖人御影	絵画	室町	昭52.4.30	間光寺	矢島町	//

河西学区

河西学区

①歴史街道マップより

河西学区の見どころ

旧河西村（大字播磨田、小島、川田、中、笠原、今市、荒見）に属するこの地域は、野洲川が伏流する湧水地帯であり、水利の豊かなところ。村々を結ぶ道は古くから存在したと考えられ、佐々木街道、錦織寺道などの古い幹線道路を通じてたくさんの人や物が往来したでしょう。

この地域は旧村名にもなった野洲川（野洲川の西岸にあるため、明治22年に河西村と定められた）の恵みとその脅威に接してきたため、野洲川に関する遺構や伝承が多く残っています。御神体の流出を田螺（お蜷さん）が守ったという蜷江神社に関わる話や一村流出という合村の悲劇の話など、野洲川にまつわる伝承が今に伝えられています。また、荒見町や播磨田町に残る水止め石は、人々と水との闘いの記録です。

河西学区には、花の見どころも多くあります。春には野洲川堤防の桜や喜多の淡墨桜、夏には蜷江神社の菖蒲や大日堂の妙蓮が花をつけ、多くの人々が訪れます。また、市民の憩いの場となっている鳩の森公園では、6月上旬頃に人工飼育された源氏堂が飛び交い、訪れる人の目を楽しませてくれます。

17. 播磨田城遺跡



播磨田町集落の南西側に広がる中世の集落遺跡である。宅地造成工事に伴う発掘調査で、室町時代の屋敷跡などが見つかっている。また、顔に刺青を施し、ベンガラを塗った縄文時代晩期の土偶が出土して話題にもなった。

18. 野洲川

古くから神聖な木とされ、神社の森にたくさんみられるが、この境内の木が市内では最も大きいものであった。昔、身を隠すために使った「みの」に葉の形が似ているためにカクレミノと名が付けられたという。



19. 杉本家屋敷



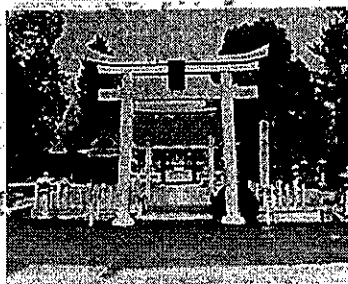
荒見町の東端にある庄屋建物である。母屋は江戸時代後期の建築と推定され、庭園もそなえている。

20. 水止め石



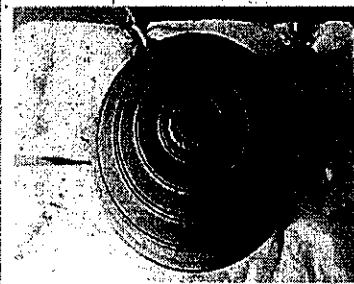
荒見町の中程の道路端に對して保存されている。野洲川が法龍川（放流川）の氾濫時にこの石に戸板をはめて、水の侵入を防いだものと思われる。

21. 蜷江神社境内



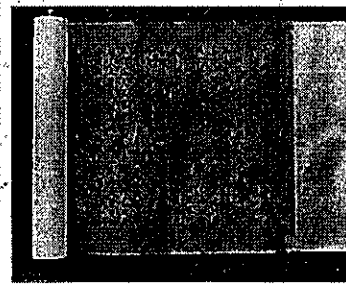
境内は広く、約4200坪の面積がある。明治初期の神仏分離令によって、各地で神社と寺院が分離されたが、本神社は境内に地蔵院などを配し、神仏習合時の社殿配置を今に伝えている。また、夏には神前で僧侶による大般若經の転読が行われる。

22. 蜷江神社鰐口



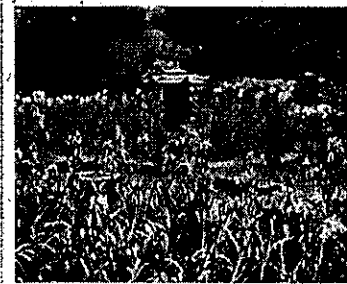
蜷江神社境内の地蔵院に掛けられていた直径30cmを越える大型の鰐口である。「吉祥寺江州播磨田」「永仁七年亥巳二月廿日」の銘文から、永仁7年（1299）に吉祥寺に伝わったものであることが窺われる。

23. 蜷江神社大般若経理趣分一卷



書体、紙質から鎌倉時代の作と考えられている。蜷江神社に所蔵されるまでの経緯は不明だが、現在も盛夏に大般若經の転読が行われ、古い伝統を受けついでいることから、かなり古い時期に伝わり、大切に継承されてきたと考えられる。

24. 野洲川



元は野洲川の伏流水が池となっていたが、まちづくり事業によって笠原町の住民の手によって、菖蒲が植えられた。

毎年、6月下旬から7月上旬にかけて、紫や白の花菖蒲が数多く開き、訪れる人の目を楽しませてくれる。

1. ツガ(天狗木)

挿段横に高さ9m、幹回り92cmのツガの木がある。ツガは天然林が伐採されて人の手が入ると急激に減少する木で、今では、この境内にあるツガがたいへん貴重な木となっている。材にはいろいろな用途があり、その樹皮からとったタンニンで漁網をそめたようである。



2. コウヨウザン(八代神社)

本殿に向かって左前に高さ18m、幹回り1.8mもあるコウヨウザンの大木がある。中国南部が原産地で、日本には江戸時代に伝えられた。



また、本殿裏の森の中には高さ16m、太さ1.25mもある大きなナナメノキが生えている。

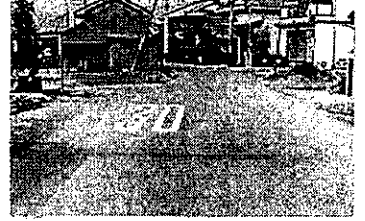
3. 河西民俗資料室



河西小学校の余裕教室を利用した展示施設。守山市内から集められた、農具や生活品などの民俗資料が展示されている。

見学は事前に市教育委員会生涯学習課まで申込みが必要。

4. 錦織寺道



守山裏町を進み、八代、阿比留を経て、中主町木辺まで通じている。中山道から真宗木辺派本山錦織寺への参詣道として、彼岸、御正忌には賑わった。

また、阿比留から木兵にもでることができた。

5. 川戸

屋敷内や家屋内に川の水を引き込むようになっている水洗い場のことを、昔から「かわと」と呼んでいる。小島町阿比留の民家には、現在も川戸が残っている。以前は、



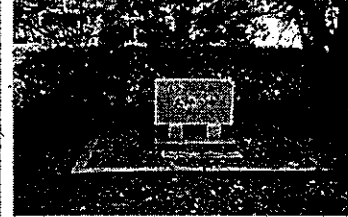
美しい川の水を炊事や洗濯など、生活全般に利用していた。

6. 阿比留遺跡



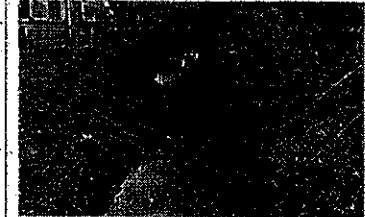
小島町阿比留の西側に広がる古墳時代の集落跡である。これまでに、道路工事などに伴う発掘調査で、竪穴住居跡や河跡が見つまっている。出土品には、渡来人の活動を示す韓系土器や刀形などの木製祭祀具をはじめ、大甕の土器や木製品がある。

7. 丸坪の湧



六兵衛山(現旭化成守山支社)は木々が鬱蒼と繁り、狐や狸が多く住み着いていたという。ここに、小島・阿比留の湯元であった丸坪の湧があった。深く、美しい水をいつもたたえていたといわれる。現在は湧跡に記念碑が建っている。

8. 播磨田湯の樋



田中幸右衛門が野洲川に設置した樋である。川中に籠樋百三十間を通し、前堤防と本堤防にそれぞれ二十間と二十五間の石樋でトンネルを作り、三十七間の内堀に水を導き、水源地(播磨田の湯)とした。現在は内堀付近の地下水をポンプでくみ上げ、水路に流している。

25. 出湯の樋



笠原町地先の野洲川堤防下の竹藪の中にある樋門である。花崗岩の切石を積み上げ、野洲川から用水を引いた。現在も樋門と水路の一部が残っている。

26. 堤防の桜



野洲川左岸の堤防に植えられた、五百本のソメイヨシノで、笠原桜林公園として市民に親しまれている。

毎年、4月上旬の桜の開花の頃は、大勢の花見客で賑わう。

27. 狐山古墳



笠原町地先の水田の中にある古墳である。須恵器の出土が知られており、古墳時代後期頃の年代が考えられる。土取りにより、形状が変形しているが、円墳とされる。

28. 佐々木街道



近江源氏佐々木六角氏の本拠(蒲生郡)と赤野井を結ぶ道であり、佐々木六角氏の湖南地方を支配する重要路であった。野洲町小南の朝鮮人街道より起こり、中主町乙窪より野洲川を渡り、笠原、荒見、布施野を経て、赤野井港に達している。荒見町に道標が残る。

29. 川辺のミクリ



川辺の河川にミクリが見られる。浅い川底に生える多年性草本で、水底から直立して、水上に50～100cm程度出る。葉は線形で、茎より高くなる。花は6～8月に開き、若い果実はクリのイガのように見える。レッドデータブックの危険種である。

30. 桜

中町若宮神社にある2本の桜の木は、春（4月）と秋（10月）の2回花を咲かせる。春には他の桜と同じく、一度にたくさんの花をつけるが、秋は一度に咲きそ



わず、次々と長期間にわたって花を咲かせる。この桜は四季桜と呼ばれるシキザクラの仲間である。

31. 餅つき神事



毎年、5月4日に中町若宮神社で行われる中町の伝統行事である。老若男女が相集い、豊作と人づくりを願って、「もちつき唄」を唄い、もちつきを行う。

32. お粥神事



毎年、1月15日午前0時に豊作と家内安全を祈願して、子供たちが「かゆ」を若宮神社にお供えする。その早朝には、中町全戸の大人、子供が一堂に会し、「かゆ」を食べ、新年を祝うという、中町の伝統行事である。

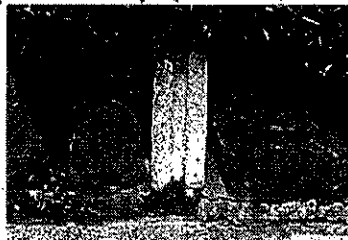
9. 田中幸右衛門記念碑

播磨田は農業用水の確保には大変苦勞の多い地域であった。播磨田村の庄屋田中幸右衛門は野洲川から水を引くことを考え、大工事の末、享保4年（1719）に播磨田の樋を完成させた。



明治34年（1901）にこの功績をたたえ、有志により、顕彰碑が建てられた。

10. 水止め石



野洲川の洪水から村を守るために、村の入口に「水止め」を設けた。播磨田町の東端にはこの水止め石が残されている。水止め石は、中央に溝を彫った石柱を道の両端に打ち込み、そこに六尺五寸の民家の戸板をはめ込み、水を防ぐようになっていた。

11. 高田信岳顕彰碑

明治の廃仏毀釈の風潮の中、西蓮寺住職高田信岳は、真宗本門派本山門主について東京に上り、明治政府に対して信教の自由を強く要求した。信教の自由を守るとい



う地域の人々によって、西蓮寺境内に顕彰碑が建てられた。

12. 西蓮寺板碑



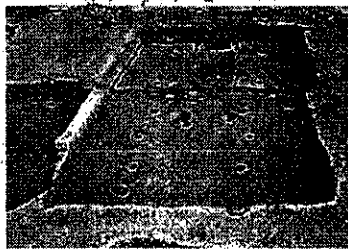
境内から出土した板碑で、現在は高田信岳顕彰碑の横に移設されている。頂部を三角の山形とも、方形の身には山の下に段を設け、さらに下に梵字の種子を刻む。銘はないが、形状と種子の表現から鎌倉時代後期のものと考えられている。

13. 鳩の森公園



アスレチックやグラウンド、池、人工河川があり、市民の憩いの場となっている。かつての農業用水であった矢島の湯跡からポンプアップした水を利用して、公園内に市立の螢小屋が設置され、源氏螢の人工増殖の研究が進められている。

14. 播磨田東遺跡



播磨田町から小島町にかけて広がる集落跡である。これまでに、弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡や墓跡が発見されている。中でも、ハイムタウン下の古墳時代の集落跡では、滑石（緑色の軟質の石）を使った玉づくりが行われていた。

15. 八ノ坪遺跡

播磨田町周辺に広がる縄文時代から古墳時代にかけての集落跡である。「衣笠の里」造成工事に伴う発掘調査では、4世紀と考えられる衣笠（賈人にさしかける日傘）



の立飾りが全国で初めて出土して、話題になった。

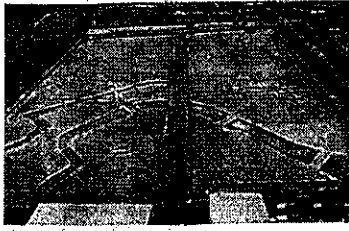
16. 酒寺遺跡

播磨田町の東側に広がる縄文時代から鎌倉時代にかけての集落跡である。土地区画整理工事などに伴う発掘調査で、弥生時代の竪穴住居跡や墓跡などが見つかり



る。出土品には、水銀朱を製作した石杵などがある。

33. 川田合村跡



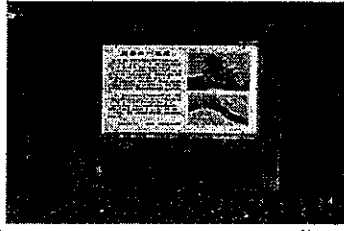
延宝5年(1677)の村絵図に記載されているが、大洪水で消滅したと伝えられる。昭和2年に行われた耕地整理によって、合村跡と推定される場所から、たくさんの石仏や墓碑が発見された。昭和61年の川田遺跡の発掘調査では、合村の一部とみられる江戸時代頃の堀跡などが発見され話題になった。

34. 十王堂



耕地整理によって、合村付近から発見された石仏や墓碑は十王堂に集められている。静かな境内に安置された石仏や墓碑がまぼろしの村「合村」の悲劇を今に伝えている。

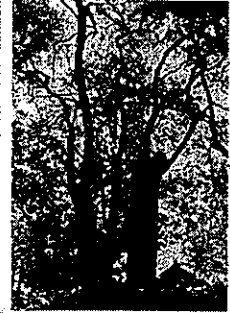
35. 川田の一本松



野洲川堤防に川田の人々から神木と敬われる「一本松」があった。高さ約20mで、樹齢約三百年の大木であったが、野洲川改修時にやむなく切られた。現在は、伊勢神宮からの代わりの神木が天神社境内に植えられており、記念碑が建てられている。そして、一本松の一部は自治会館などに保存されている。

36. ヒイラギ(天徳宮)

御大典記念碑のある築山の上に、樹齢百年くらいになるヒイラギの古木がある。高さ7m、幹回り85cmの大きさと、晩秋にはモクセイに似た香りのある白い花をつ



ける。節分にはこの木の枝にイワシの頭を添えて門口にかざし、魔除けとした。

河西学区の指定文化財

県指定文化財

地図に○で表示

番号	名称	種類	年代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
22	鱈口	工芸	室町	昭56. 4.24	蛸江神社	笠原町	要連絡
39	大日堂の妙蓮及びその池	天然記念物		昭40. 3.26	近江妙蓮保存会	川田町田中	

市指定文化財

地図に●で表示

番号	名称	種類	年代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
12	西蓮寺板碑	建造物	鎌倉	平12. 5.12	西蓮寺	播磨田町	要連絡
21	蛸江神社境内	史跡	近世	昭52. 4.30	蛸江神社	笠原町	
23	紙本墨書大般若経理趣分	書跡	鎌倉	昭52. 4.30	蛸江神社	笠原町	要連絡

速野学区

速野学区

①歴史街道マップより

速野学区の見どころ

琵琶湖に沿う速野学区には、古い文化財と豊かな自然が残っています。木浜町の福林寺には豊かな頬をもち、肩や胸部の曲線が優美な木造十一面観音像があります。また鎌倉時代の石造宝塔が2基あり、観音像とともに国指定の文化財となっています。

この他、速野学区の旧野洲川沿いや琵琶湖岸に豊かな植物や樹木が残っています。琵琶湖岸には海浜性植物のハマヒルガオが群落をつくっていて、人々の目を楽しませてくれています。また、湖越しに見る比叡山から比良山系の景観は美しく、毎年多くの観光客が訪れます。

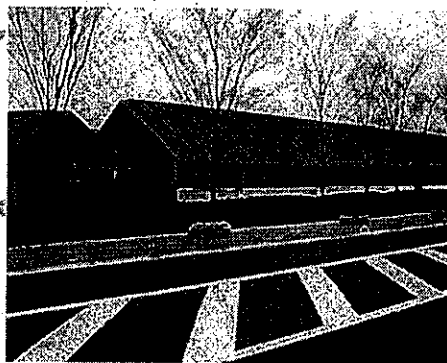
12. 旧木浜港



現在の守山漁港近くの料理旅館一帯は、旧木浜港であった。木浜は「エリ漁」の親郷といわれ、堅田まで届くほど大きな「エリ」があったと伝えられる。

旧木浜港は埋立地の先につくられ、さびれる旧港が一層、親しみを覚える。

13. 佐川美術館

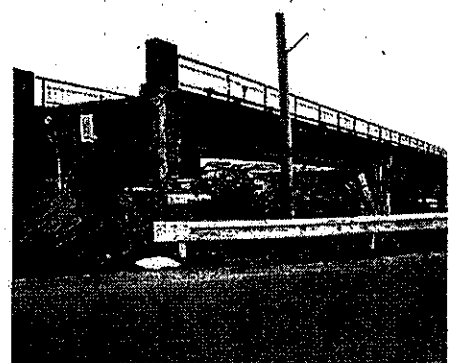


木浜の埋立地にある私立美術館。日本画家の平山都夫氏、彫刻家の佐藤忠良氏の名品が展示されている。

建物は水に浮かぶ倣島神社のイメージをもとに設計され、周囲を水庭が取り巻く。2棟の館はそれぞれが両作家の展示棟で作家自らが展示テーマを掲げている。

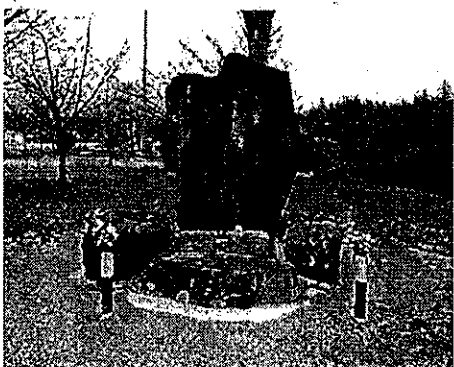
休館日は月曜、年末年始。

14. 大川橋



旧野洲川南流にかけられた橋である。旧野洲川が平地化されたため、現在は橋のみが空中に浮いた状態である。古くは板橋であったと思われ、野洲川の流れに組みしやすいものであったが、近代化された橋が残った。

15. 土手殉死供養碑



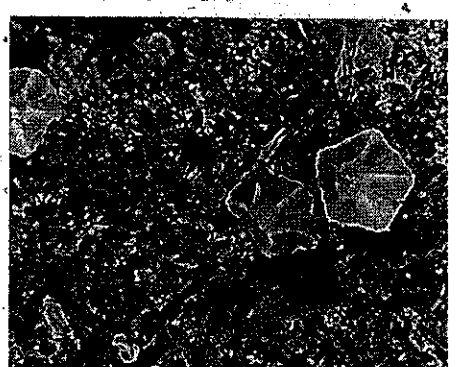
昭和40年、今浜美崎で、野洲川南流が決壊し17世帯が孤立状態となる洪水がおこった。その救助にあっていた自衛隊員の一人が殉職する事故があり、その事故現場に供養碑が建立されている。

16. お満灯籠



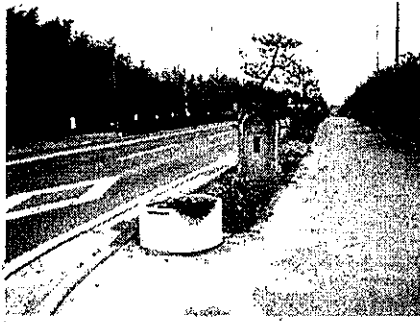
力士の八荒を慕い百日間通ったお満の伝説がある。春先、比良山から吹き下ろす大風によって遭難したお満の霊を慰めるためにこの灯籠が建てられたといわれる。比良の八荒が終ると春が来るといわれている。

17. ハマヒルガオ(美崎)



湖岸にハマヒルガオの群落がみられる。元来、海岸沿いに自生するものであるが、まれに湖辺や川原に生えることがあり、琵琶湖沿岸にもみられる。朝、花が開いて、日中咲きつづけることからハマヒルガオとよばれている。

1. 列系図橋



洲本町開発と水保との間に架けられた野洲川旧南流の橋で、現在は平地化している。橋の両岸に標石のみが残っている。名称の由来は地名からともいわれています。

2. 己爾乃神社(開発)



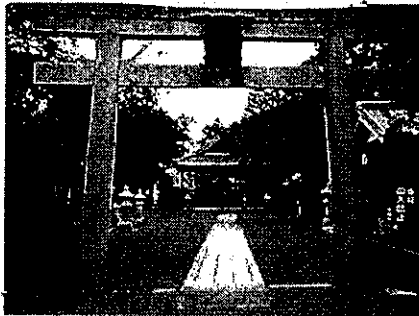
延喜式神名帳えんぎしきしんめいちょうに記載された古い神社である。式内社であり、2座あったという社の一つ。

3. クスノキ(浄秀寺)



木造阿彌陀如来立像を本尊とする浄秀寺のまわりに、4本の大きなクスノキがある。高さ12m前後あり本堂に向かって左側に植えられた木の幹回りは、276cmもあり、特に大きいものである。

4. 己爾乃神社(大曲)



延喜式神名帳に記載された古い神社で式内社である。市指定文化財銅水瓶、ついでつ経筒がある。銅水瓶は寛正6年(1465)の銘文があり、神仏習合時の神宮寺であった玉林寺のものと考えられる。経筒には嘉吉二年(1442)正月十一日の記銘があった。



経筒



銅水瓶

5. ハノキ(洲本町)

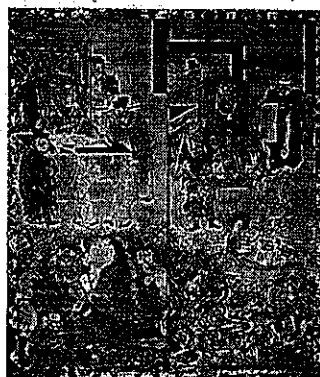


大曲の旧堤防沿いの池の傍らに数本のハノキがある。湿地を好んで生育するこの木は秋の刈り入れの際に、稲を掛けるのに用いられた。

18. 水保観音寺仏画



仏涅槃図



十王図

観音寺には室町時代の仏涅槃図、十王図の2点の仏画が保存されている。涅槃図は釈迦が入滅される際の様子を描かれている。裏書によると、野洲郡秋富郷の観音寺に藤田彦左衛門が永録12年(1569)に寄贈したものである。

十王図は太閤の死後、生前の功罪により地獄や極楽浄土に導かれるという仏教思想を描いたものである。

19. 観音寺石造板碑



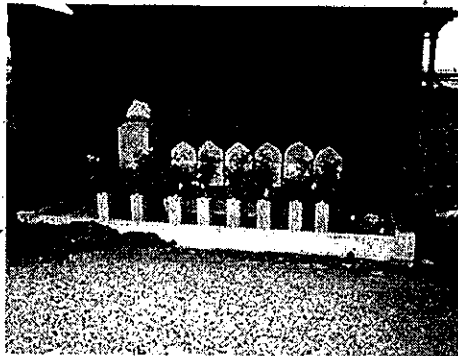
境内の本堂裏に安置されている石造板碑で、鎌倉時代のものである。頂部を山形にし上半部に円形の種子(しゅじ)を刻んでいる。

20. フジ (観音寺)



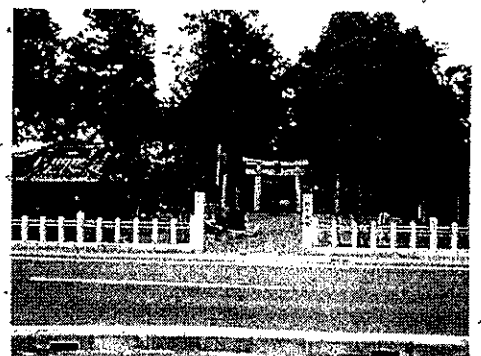
平治の乱で関東に逃げ落ちた源頼朝が、この地で武運を祈願しフジに託したとされる。征夷大將軍に任じられた頼朝は念願が達せられ、田畑を寄進し伽藍を建立したといわれている。現在のフジは大正11年に植えがえたものと伝えられる。

21. 観音寺石仏群



本堂の東側墓地や山門左側などに安置されている。五輪塔・石仏など室町時代から江戸時代の遺品が安置されている。写真は山門前の石仏。

22. 今浜城跡



樹下神社一帯に想定される城跡。現状では堀などの痕跡をまったくとどめていない。近くでの発掘調査で、室町時代の土器が出土しているのが、唯一の資料である。

6. 木浜墓地



墓地の中央に火葬場がある。明治後期に建築された火葬場で、滋賀県でも古い時期に属する。一時、解体の話もあったが、自治会の努力で補修され、現在に到っている。墓地の東端には地蔵が5体祀られている。

7. 板倉街道 (このはまみち)



旧木浜港から木浜町内を通り、旧道を東に進む道で、江戸時代末期から大正年間の古い民家がまだ残っている。

笠原町板倉氏が物資を運ぶための道路としてその名がついた。河西学区につづく。

8. 福林寺十一面観音



本堂背後の収蔵庫内に安置されている等身大の観音像である。国指定重要文化財。寺伝では伝教大師の作とされ、月光を光背に五色の蓮華台座にたち、豊かな頬やまろやかな肩・胸部・衣の線が非常に美しい。有料。

9. 福林寺石造宝塔



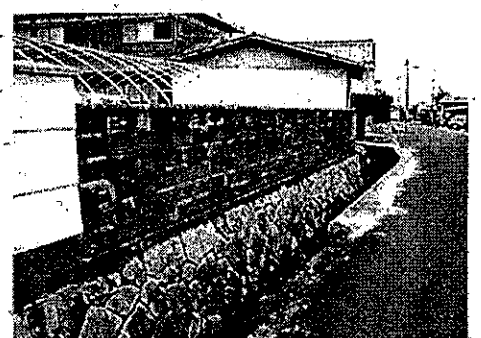
本堂に向かって右側の庭のなかに、2基の宝塔がある。いずれも国指定文化財。佐々木高綱が奉納したと伝える。屋根石はゆるやかな勾配で軒反りは小さく、その特徴から鎌倉時代の作品である。

10. 木浜城跡



進藤山城守 (しんどうやまじろのかみ) の居城と伝えられる城跡で、現在は水路などにその痕跡がある。小浜町にも進藤山城守の小浜城がある。室町幕府第15代將軍足利義昭は進藤氏にをたよって矢島に来たと伝えられる。

11. 大槻氏城跡



大槻氏の居城と伝えられていて、現在の大槻家一帯が城跡と想定される。

木浜城跡とともに城跡をうかがわせる跡はない。中世城郭は、当時の有力武士の館を主としており、大槻氏も有力な武将であったと推定される。

23 樹下神社



樹下神社の境内に大きな楓の木が2本ある。明治29年の大洪水の際、地元の住民が京都・二条城に仕事の手つだいにいき、城から幼木を貰ってきたものと伝えられている。

24 中野の旧野洲川堤防沿いに十郷池



中野の旧野洲川堤防沿いに十郷池がある。長く田畑の灌漑用水や生活用水として利用されてきた。昭和63年に花ハスが植えられ、池一面に広がり花を咲かせていて夏の風物詩となっている。

25 旧野洲川堤防沿いの稀少植物



旧野洲川の堤防の土手には、ササユリ・オモト・アキニレ・タコノアシなど稀少植物がみられる。これらの植物は河川改修などの人間生活の影響を受け、絶滅の危機に瀕しているが、わずかに旧野洲川沿いに自生している。(写真はタコノアシ)

速野学区の指定文化財

国指定文化財

地図に○で表示

番号	名称	種類	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
8	木造十一面観音菩薩立像	彫刻	明42. 4. 5	福林寺	木浜町	要連絡
9	石造宝塔2基	建造物	昭23. 4.27	福林寺	木浜町	要連絡

市指定文化財

地図に●で表示

番号	名称	種類	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
4	銅製経筒	工芸	昭49. 8.26	己爾乃神社	洲本町	要連絡
4	銅製水瓶	工芸	昭49. 8.26	己爾乃神社	洲本町	要連絡
18	仏涅槃図	絵画	平 9. 4. 1	観音寺	水保町	要連絡
18	十王図	絵画	平 9. 4. 1	観音寺	水保町	要連絡
19	石造板碑	建造物	平12. 5.17	観音寺	水保町	要連絡

中洲学区

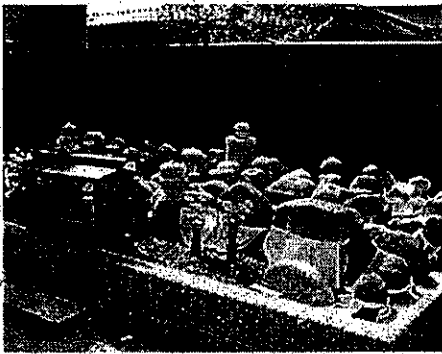
中洲学区

①歴史街道マップより

中洲学区の見どころ

野洲川が琵琶湖に注ぎ込む、最も下流のデルタ地域に中洲学区は位置しています。中洲という名のとおり、新庄の上流を分岐点として南北に分かれて流下する旧河川の狭間にあたります。野洲川は「近江太郎」と呼ばれ人々に親しまれた反面、新放水路が完成（昭和54年）するまでは、暴れ川で10年に1度は大災害を繰り返してきました。この地で発見された服部遺跡は数度の洪水で地中深くに埋もれた文化財で、二千数百年前の弥生水田は、この地が古来より農耕に適した地であったことを物語っています。そして、水との絶え間ない闘いは、祈りや信仰、祭というかたちでこの地に伝承されています。

10. 立田円福寺の石仏



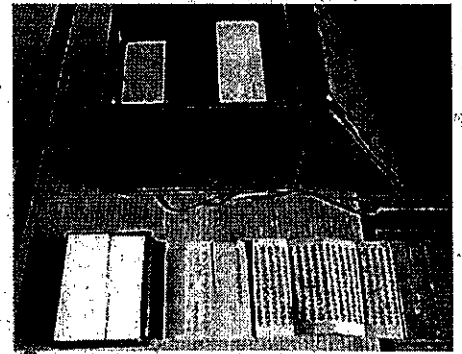
野洲川南流の平地化工事の際に川の中で発見された石仏。室町時代末期の作と考えられる石仏。また北流の工事の際にも、花崗岩に刻まれた大日如来像が発見され同地に安置されている。

11. 戸田城跡



円福寺の北西の民家内に高さが約1m程の土塁が残っている。現在は垣根となっているが、城跡の一部と考えられる。

12. 立田円福寺



集落の南にある小堂。木版の大般若経600巻が伝えられている。

奥書には文安元年（1444年）に奉納されたことが記されており、現在でも経文の転読が続けられている。

13. 東光寺十一面観音像



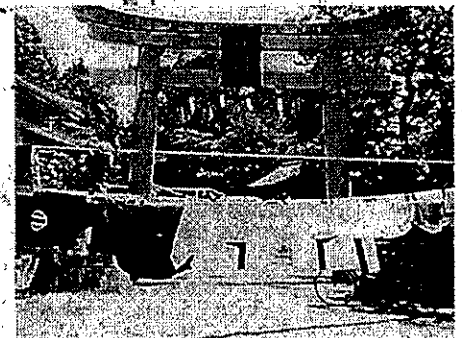
像高105cmの寄木造りで、素地彫眼の十一面観音。少年を思わせる面持ちや全体の作風から鎌倉前期の作と考えられる。頭上面がほぼ当初の姿を留めている点は極めて貴重。

14. 東光寺五輪塔



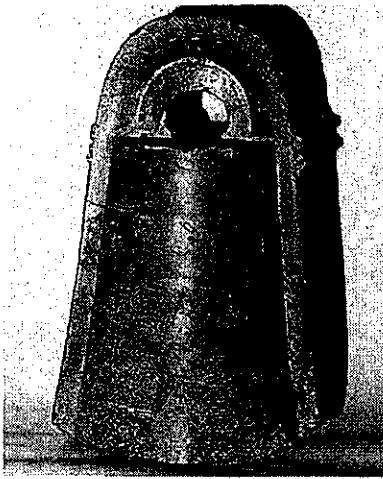
室町時代初頭の五輪塔で、市内最大である。石は下から四角・円・三角・半円・如意宝珠形の五つを積み、それぞれの石の名を地、水、火、風、空と呼ぶ。

15. 下新川神社



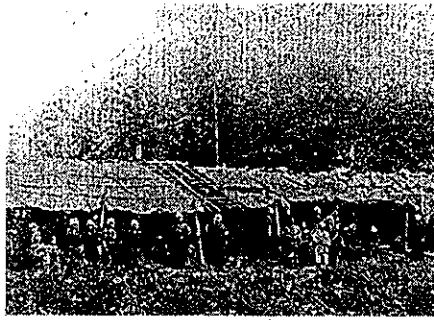
延喜式神名帳に記載された式内社。野洲川の水神とかわりをもつ社と考えられ、社地の南東方約1kmには服部遺跡がある。境内は広く、本殿は大永三年の棟札が残るが後に改築。夏に長刀振りの衣装が虫干しされる。

1. 新庄の銅鐸



江戸時代に4口の銅鐸が発見されている。現在、その内の1個が岡山県倉敷考古博物館に保管展示されている。兵庫県桜ヶ丘銅鐸などと兄弟銅鐸で、流水文やシカの絵が描かれている。

2. 新庄の洪水写真



明治29年の大洪水は記録的なもので、野洲川の堤防は欠損し、田んぼのほとんどが泥土でおおわれ、家屋の大半は壊れてしまった。その時の写真が個人宅に保管されている。

3. 稲荷神社



野洲川北流の屈曲点の堤防上にある神社。ここが決壊すると幸津川町が大きな被害を受けるため洪水のないことを祈願して幸津川町の個人が設置した。神社裏の堤防にはエノキの大木が植えられている。

4. 埋蔵文化財センター



昭和55年に建築された守山市の埋蔵文化財調査拠点。市内の遺跡資料をはじめ、出土した遺物を保管、展示をしている。(火曜日と祝日の翌日は休館。)

5. 服部遺跡



野洲川改修工事で発見された巨大な集落跡で縄文時代から鎌倉時代までの村跡や水田、墓などが発見された。なかでも弥生時代の方形周溝墓は大小あわせると360基以上発見されていて、中には木棺が残っているものもあった。

出土品には、弥生土器や古墳時代の和琴、木製農具、奈良時代の木簡、銅印などが大量にあり、埋蔵文化財センターに保管・展示されている。

16. 近江のケンケトまつり長刀振り



毎年5月4、5日に下新川神社で奉納される国選択無形民俗文化財。境内で「かんの舞」、「長刀振り」が奉納され、町内の各辻、大水口神社でも踊られる。同時に境内で行われる「すし切りまつり」は古式な儀式で真簀を使ってふなすしを神前で切る。

17. 地藏堂



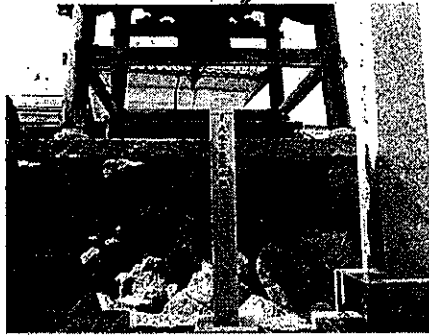
集落中央の河川沿いにある小堂。本尊は不動明王で江戸時代の作。

18. 大水口神社



集落から離れて北端の野洲川堤防近くにある。長刀振りがここまで奉納しにくる。境内には、川切れ百周年の記念碑がたてられている。

19. 幸津川の水込み



明治29年の大洪水で一帯が約2mほどの高さまで浸水した。この水が引くのに一週間もかかったと伝えられている。この時の最高水位の高さを復元した石碑が、浄宗寺の門前横に建てられている。

20. 小浜大日堂の大日如来



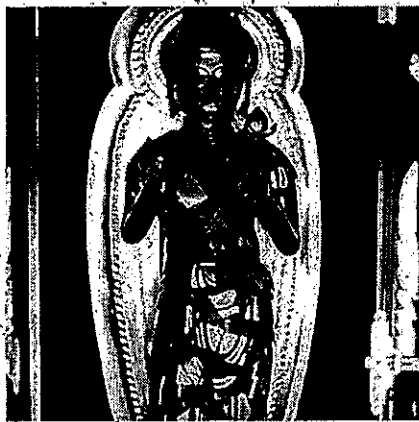
大日堂の内陣中央に安置された最大の大日如来坐像。鎌倉時代初頭の作で県指定文化財。奇木造りで、全体にふくよかな様子を表現し、両手は大日印を結ぶ。

21. 小浜大日堂の薬師如来



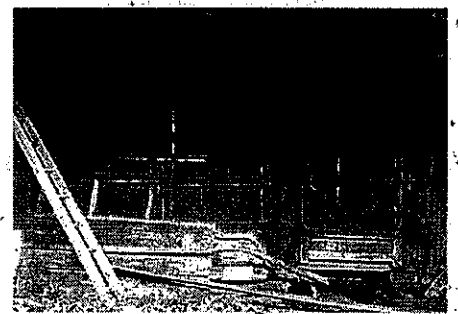
大日堂の内陣右端に安置された薬師如来坐像で市指定文化財。平安時代後期の作で、奇木造り、半丈六の坐像でふくよかな顔、身体、なで肩、裸髪などに平安時代の作風をみることができる。左手には薬壺を持つ。

6. 極楽寺



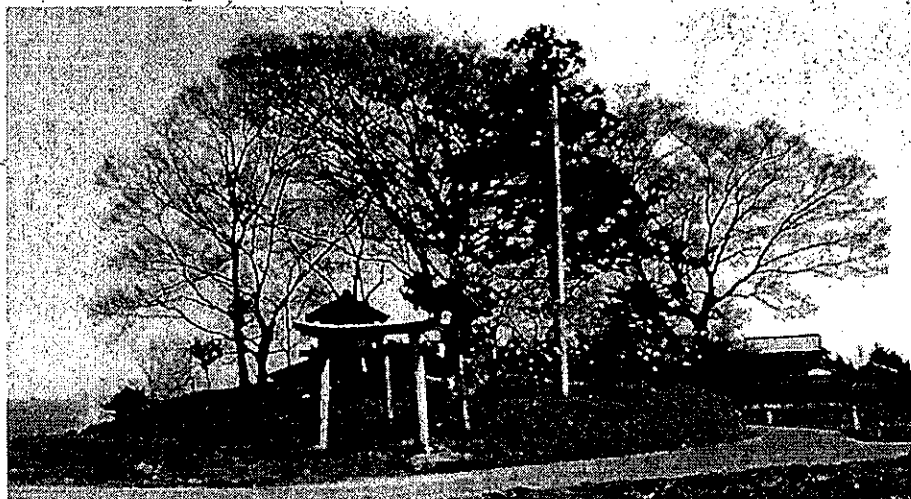
小さな堂の内部に市指定文化財の阿弥陀如来と聖観音菩薩が安置される。右の阿弥陀如来は白毫相で通肩の大衣をまとい、両袖を軽く体側に垂らし、穏やかな姿である。左の聖観音菩薩は一木造りで、厚くかかった古式漆は後世の修理によるものであるが、垂鬘、宝冠などから平安時代後期の作であることを窺わせる。

7. 服部陣屋



江戸時代の代官が居住していた陣屋跡で、現在は痕跡がないが、津田に門が移築されている。

8. 産土神社



小高い自然堤防上に野洲川の水害防除を祈念して建てられた神社である。

9. 立花城跡



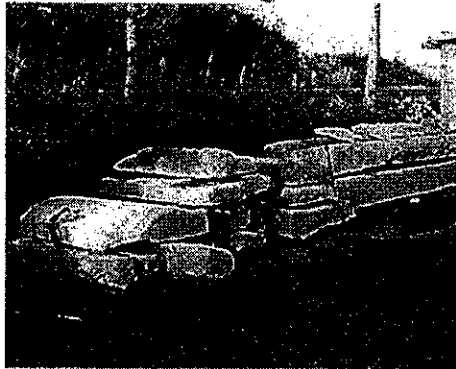
伝承上の城跡である。かつては土塁が存在していたが、現在は、平地化されその痕跡は確認しにくい。

22. 小浜城跡



自治会館一帯にあった進藤山城守の居城と言われる城跡。かつては濠の一部が残存していたが、現在は集落整備のため痕跡はほとんどない。

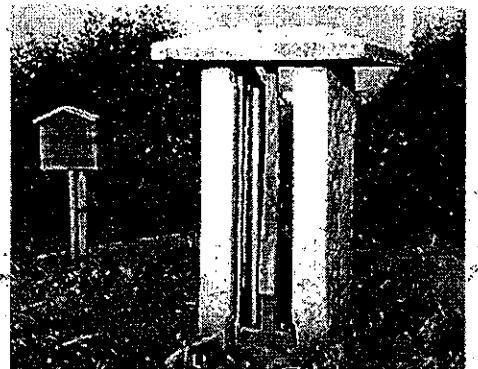
23. 桑ノ木樋門



大正年間に野洲川北流から幸津川町の水田を潤すために石製の樋門が設けられた。長さ約4m、の延べ石を箱状に組み、河川の中に埋め込んだもの。

平地化事業の際に再び姿を現わし現在は、市立埋蔵文化センターに保管されている。

24. 樋門



野洲川北流の堤防内にあった田用水のための樋門。天満宮の北側の広場に復元されている。

文政年間（1826年）の古文書には、木樋が痛んだために石樋に作り替えることが記されている。

中洲学区の指定文化財

国指定文化財

地図に○で表示

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
16	近江のケンゲト祭り、長刀振り	無形民俗	—	昭59.12.20	下新川神社神事保存会	幸津川町	

県指定文化財

地図に●で表示

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
20	木造大日如来座像	彫刻	鎌倉	昭55.4.18	大日堂保存会	小浜町	要連絡

市指定文化財

地図に●で表示

番号	名称	種類	時代	指定年月日	所有(管理)者	所在地	備考
6	木造聖観音菩薩立像	彫刻	平安	昭63.3.31	極楽寺	服部町	要連絡
6	木造阿弥陀如来立像	彫刻	鎌倉	昭63.8.31	極楽寺	服部町	//
12	大般若波羅密多經	書籍	室町	昭49.8.26	円福寺	立田町	//
13	木造十一面観音菩薩立像	彫刻	平安	平9.4.1	東光寺	幸津川町	//
21	木造薬師如来座像	彫刻	平安	昭55.4.18	大日堂保存会	小浜町	//

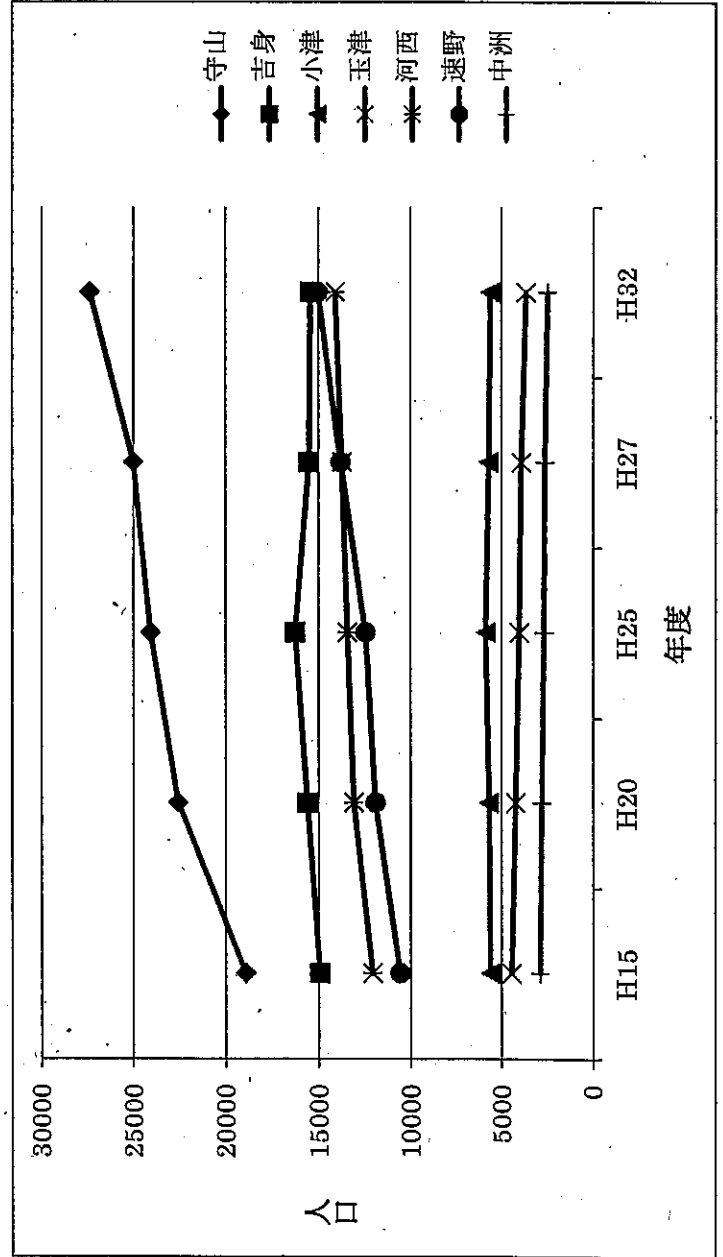
守山市内の 人口推移について

資料

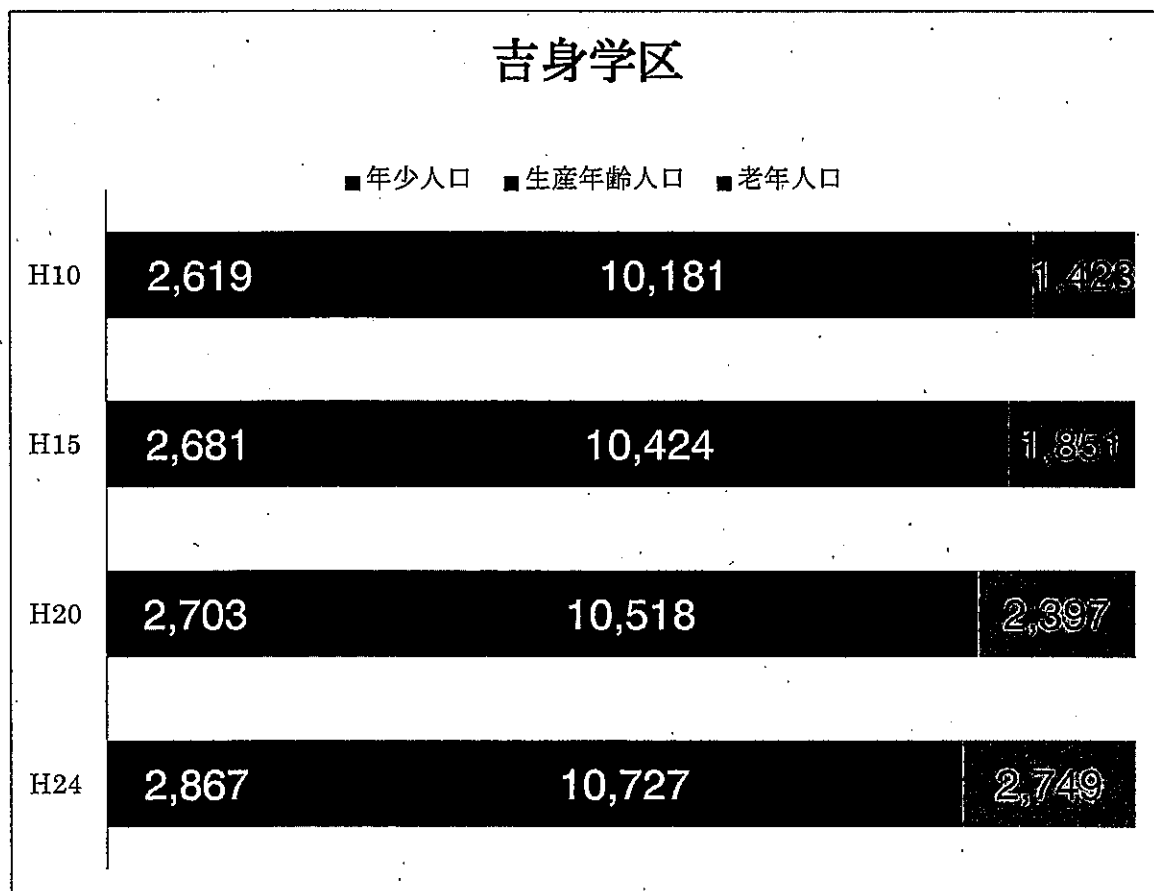
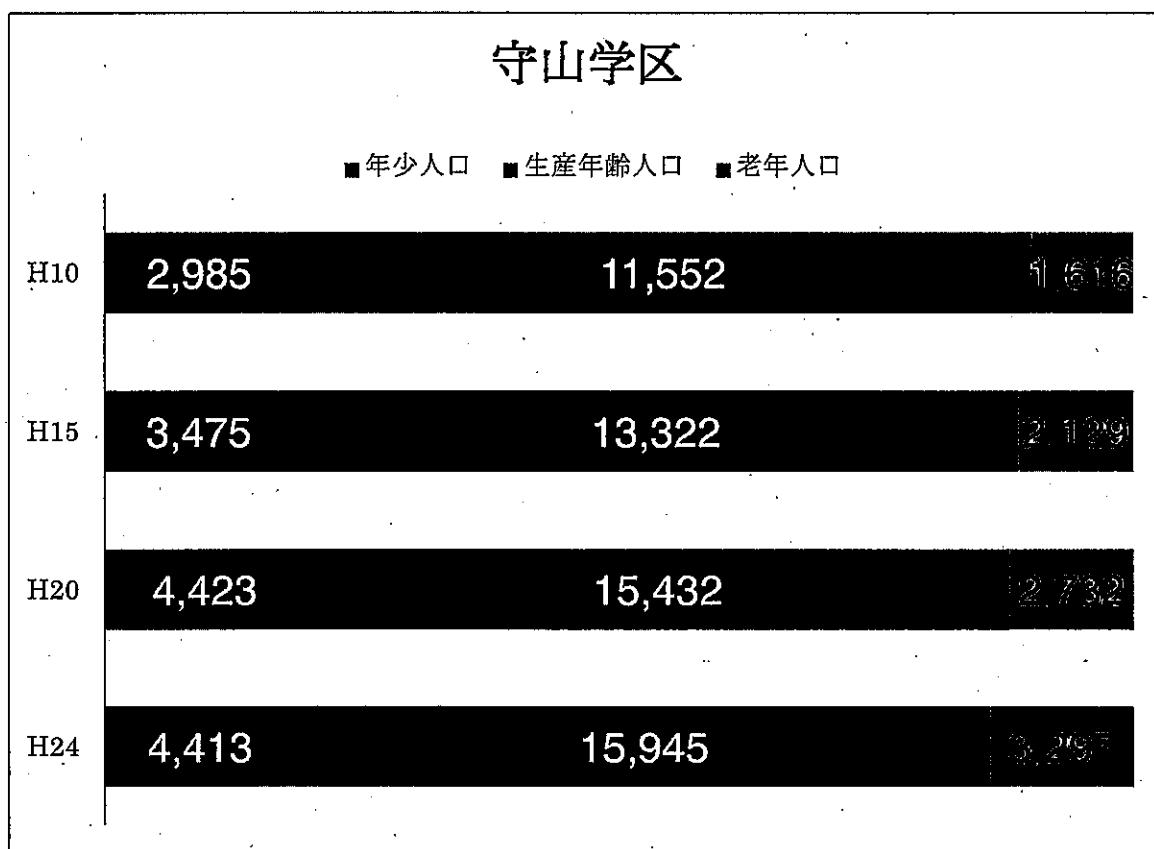
(1) 各学区の人口推移

※ 27、32年度においては第5次総合計画のデータを参照

	平成15年			平成20年			平成25年			平成27年			平成32年		
	人口数	増減数	増減率	人口数	増減数	増減率	人口数	増減数	増減率	人口数	増減数	増減率	人口数	増減数	増減率
守山	18926			22566	3640	119%	24063	1497	107%	25025	962	104%	27404	2379	110%
吉身	14956			15618	662	104%	16280	662	104%	15536	-744	95%	15452	-84	99%
小津	5624			5699	75	101%	5886	187	103%	5708	-178	97%	5609	-99	98%
玉津	4443			4220	-223	95%	4025	-195	95%	3907	-118	97%	3649	-258	93%
河西	12087			13099	1012	108%	13444	345	103%	13745	301	102%	14111	366	103%
速野	10585			11928	1343	113%	12469	541	105%	13816	1347	111%	15042	1226	109%
中洲	2891			2799	-92	97%	2675	-124	96%	2624	-51	98%	2476	-148	94%
合計	69512			75929	6417	109%	78842	2913	104%	80361	1519	102%	83743	3382	104%

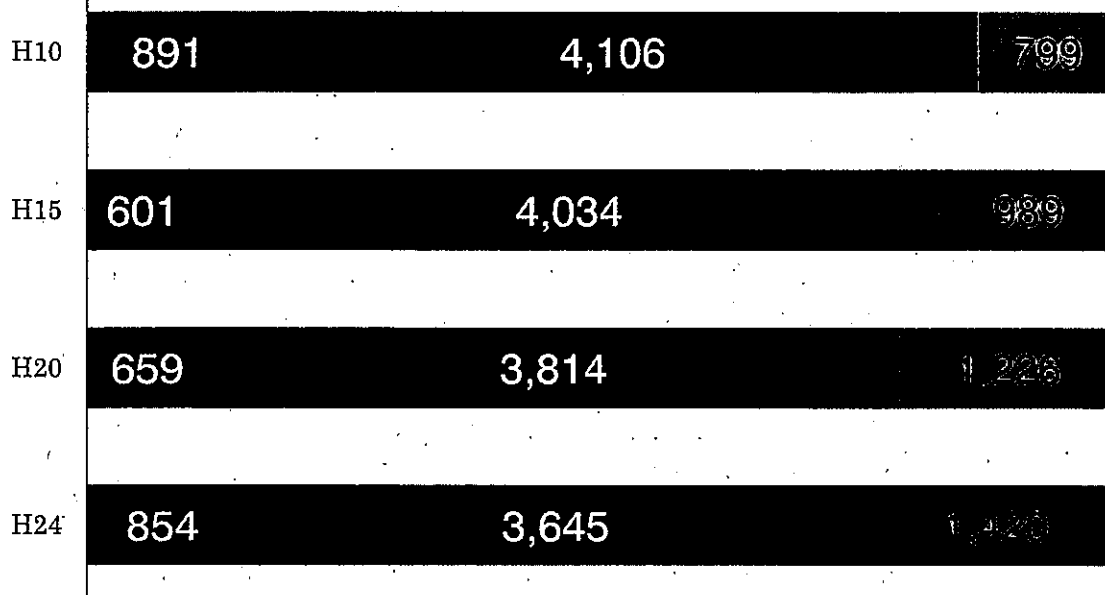


(2) 各学区の年齢層別人口推移



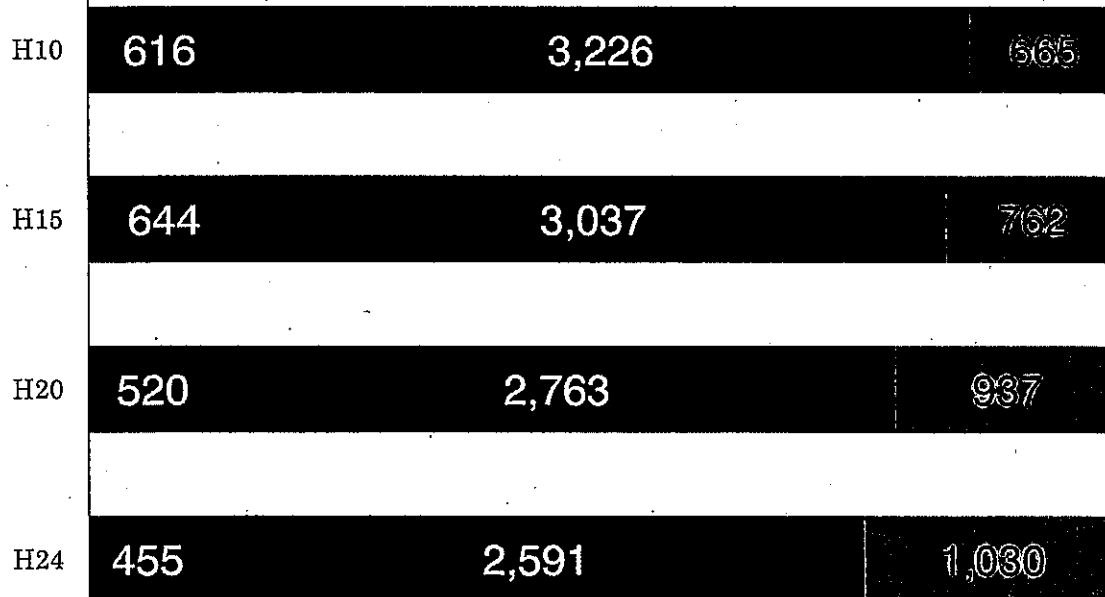
小津学区

■年少人口 ■生産年齢人口 ■老年人口



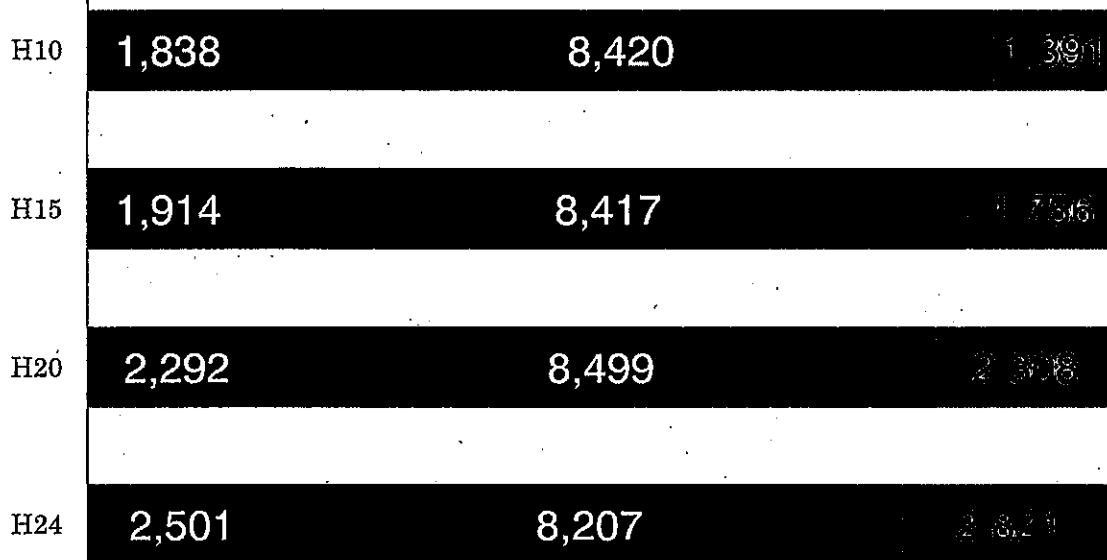
玉津学区

■年少人口 ■生産年齢人口 ■老年人口



河西学区

■ 年少人口 ■ 生産年齢人口 ■ 老年人口



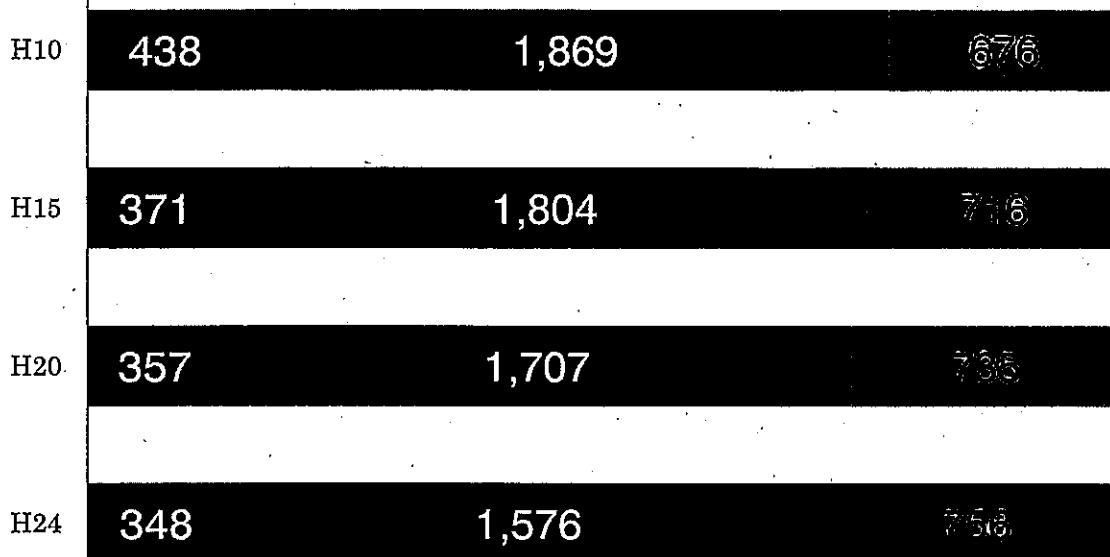
速野学区

■ 年少人口 ■ 生産年齢人口 ■ 老年人口



中洲学区

■年少人口 ■生産年齢人口 ■老年人口



総計

■年少人口 ■生産年齢人口 ■老年人口

